



# 令和6年度 事業報告



社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会

# はじめに

## 事業報告書の特色

- 1 各事業における1年間の取組みについて、事業計画で掲げた「数値（到達）目標」に対して、一年間の活動を振り返り、どのような成果を生み出したのか、またどのような課題が残ったのかを事業ごとに総括し、令和7年度の事業計画に反映させています。
- 2 令和6年度からスタートした「かまくらささえあい福祉プラン（第6次地域福祉活動計画）」を着実に推進するため、事業計画とプランを意識的に連携させ、「I かまくらささえあい福祉プラン（第6次地域福祉活動計画）との関連性」において、事業計画とプランの関連を明確にしました。
- 3 今回の事業報告書から掲載方法を見直し、より見やすさを向上させることに努めました。

令和4年度から事業報告書の中に、事業ごとの評価、課題を明示し、事業の到達状況の可視化を進めるよう取り組んできました。福祉分野に数値目標を設定することはなじまないのではと言われてきましたが、そのことにより事業ごとの到達状況が曖昧となり、市民や職員のモチベーションの滞留、低下をもたらす一因となっていたのではと認識しています。「かまくらささえあい福祉プラン（第6次地域福祉活動計画）」を着実に推進するためにも、到達状況を明らかにし、着実にステップアップできるよう継続していくことが重要と捉えています。

## 令和6年度事業の取組み報告

### 【 評価について 】

評価基準を5段階に設定し、事業ごとに評価を加えました。

「5 想定よりかなり取組めた」「4 想定よりやや取組めた」「3 取組めた」  
「2 やや取組めなかった」「1 取組めなかった」

重点事項は、9事業あり、「2 やや取組めなかった」が2事業(22.2%)、「3 取組めた」が5事業(55.5%)「4 想定よりやや取組めた」が、2事業(22.2%)でした。

事業区分別の主な取組みについては、88事業あり、「3 取組めた」「4 想定よりやや取組めた」が、75事業で全体の85.2%であり、ほぼ計画通りに事業が執行できたと分析します。ただ、「1 取組めなかった」「2 やや取組めなかった」を合わせた割合は前年度とほぼ同じ、「5 想定よりかなり取組めた」が3事業から0となっており、個々の事業についての分析を行う必要があります。

評価基準	重点とする主な事項			事業区分別の取組み		
	令和6年度 9事業	令和5年度 11事業	令和4年度 12事業	令和6年度 88事業	令和5年度 96事業	令和4年度 94事業
5	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0(0.0%)	3(3.1%)	4 (4.3%)
4	2 (22.2%)	4(36.4%)	5 (41.7%)	13(14.7%)	18(18.8%)	21 (22.3%)
3	5 (55.5%)	7 (63.6%)	4 (33.3%)	62(70.4%)	62(64.5%)	57 (60.6%)
2	2 (22.2%)	0 (0.0%)	2 (16.7%)	11(12.5%)	6(6.3%)	8 (8.5%)
1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	2(2.2%)	7(7.3%)	4 (4.3%)

# I かまくらささえあい福祉プラン(第6次地域福祉活動計画)との関連性

## 大項目 I 地域福祉の担い手づくり

かまくらささえあい福祉プラン (第6次地域福祉活動計画)			令和6年度事業計画	頁
小項目	(1)-①	気軽に参加できるボランティア活動や地域福祉活動の開拓	ボランティア活動に関する相談受付及び分析	27
			施設部会等でのボランティアニーズの調査	27
	-②	ボランティア入門講座等、担い手増強のための講座開催	ボランティア入門講座の開催	30
小項目	(2)-①	福祉教育の推進	福祉教育メニュー拡充	32
			校長会・教頭会等へ福祉教育プログラムの紹介	32
			地域住民へ向けた福祉教育プログラム実施	33
	-②	夏休み子ども福祉体験の開催	夏休み子ども福祉体験の開催	32
-③	社会福祉協議会の活動周知による市社協賛助会員の増強	一般会員及び賛助会員の募集・紹介	20	
小項目	(3)-①	社会福祉施設等との協働による担い手づくりや福祉意識の醸成への取組み		
			-②	高齢者施設等による認知症サポーター養成講座の開催と防災・安全情報メールの登録者拡大

## 大項目 II 集いの場や居場所づくり

かまくらささえあい福祉プラン (第6次地域福祉活動計画)			令和6年度事業計画	頁		
小項目	(1)-①	お出かけ型(移動型)サロンの実施	住民同士の交流の場の支援・企画・実施	46		
			-②	近所の団らん助成事業の継続実施	住民同士の交流の場の支援・企画・実施	46
			-③	多世代交流事業の企画・実施	施設利用者と地域の子どもから大人・高齢者が交流できる事業の実施	67
小項目	(2)-①	集いの場や居場所づくりに協力可能な福祉施設や企業等の開拓				
			-②	集いの場や居場所に関する情報収集とニーズ把握		
小項目	(3)-①	親睦や交流が主な目的ではない集いの場の検討・実施				
			-②	就労体験協力店等の拡大による社会参加の機会となる場の拡充	就労準備プログラムの作成	55
			就労準備支援プログラムへの協力企業や団体の拡充	56		
			利用者への柔軟で多様な支援の取組み	56		
	-③	寄り添い、つながりの支援				

### 大項目 Ⅲ 支え合いや助け合いの活動支援と仕組みづくり

かまくらささえあい福祉プラン (第6次地域福祉活動計画)			令和6年度事業計画	頁
小項目	(1)-①	高齢者等の生活支援・介護予防・健康増進の取組みに関する活動支援	地区社協等への参加・協働	36
	-②	地区社協が取り組む地区ボランティアセンターの活動支援		
	-③	声かけ・見守り活動の推進	平時からの声かけ・見守り活動の取組みからつながる要配慮者支援の啓発	47
小項目	(2)-①	災害時に備えた市や鎌倉青年会議所との定期的な協議の場づくり		
	-②	災害ボランティアセンター企画会議の開催	三者協議の開催 災害ボランティアセンター企画会議(仮称)の開催	34 34
	-③	災害時に強い支え合いや助け合いの推進		
小項目	(3)-①	福祉当事者団体と今後の活動を話し合う場づくり	団体部会の開催 福祉当事者団体への助成	39 61
	-②	ボランティアやNPO団体等での活動者に向けた支え合いや助け合い活動への協力の投げかけ		
	-③	施設部会との連携・強化	施設部会等でのボランティアニーズの調査	27

### 大項目 Ⅳ 相談支援と情報提供の基盤づくり

かまくらささえあい福祉プラン (第6次地域福祉活動計画)			令和6年度事業計画	頁
小項目	(1)-①	なんでも相談窓口の継続と機能充実	なんでも相談窓口の運営・拡充	34
			①生活福祉相談、②健康相談、③福祉法律相談の実施、④なんでも相談窓口の設置	66
	-②	多機関連携・協働による総合相談支援	住宅確保要配慮者相談窓口の運営	41
			相談支援機関等からの相談受付 研修会の開催	41 44
-③	相談内容や対応状況の共有	円滑な制度利用に向けた制度の丁寧な説明	53	
小項目	(2)-①	地域の社会資源や地域特性の把握・整理	「参加支援事業」の取組み	42
			住民に必要な社会資源の整理と活用の取組み	47
	-②	福祉関係の組織や団体等の基本情報の収集・整理	ホームページ等によるボランティア団体の紹介	29
			地下道ギャラリー、鎌倉FMでの団体紹介 地区社協部会の開催	29 38

			団体部会の開催	39
			施設部会の開催	40
	-③	組織内における情報共有の強化		
小項目	(3)-①	社協の活動や福祉に関する情報をわかりやすくタイムリーに発信する取組み	福祉活動振興基金の周知	22
			(新規)かまくら社協だよりの紙面刷新検討	23
			なるほど社協 第4版の作成	23
			(新規)インスタグラム運用の定着及び積極的な活用	23
			イメージキャラクターの適正な運用	24
			ホームページ等でのボランティアニーズの情報発信	28
			個人登録「はじめの一步」及びボランティア団体登録	28
			地域活動やSCの活動に対する関心を促す広報・報告の取組み	46
			協議体設置運営に向けてSCや協議体の機能や役割を地域にわかりやすく伝えるための方法を検討していきます。	47
	-②	福祉関係の組織や団体等が行う情報発信の支援		

## II 事業区分別 体系図

大事業	中事業	小事業	主な取組み	頁
1 法人運営事業	1 法人運営事業	1 法人運営のための会議等の開催	①理事会・評議員会の開催及び改選の円滑な実施	18
		2 効率的な組織運営	① 職員研修の開催	19
			②（新）経理事務の委託化に向けた検討及び会計処理の効率化を図る	20
		3 会員の増強	①一般会員及び賛助会員の募集・紹介	20
	4 共同募金・寄付金募集の取組み	①(新)共同募金運動全般に渡る業務の検証	20	
		② 福祉活動振興基金の周知	21	
	2 基金運営事業	1 基金の適正な管理運用	① 福祉活動振興基金管理委員会の開催	22
2 企画広報事業	1 広報啓発事業	1 広報活動の充実と福祉情報の収集、発信	①(新)かまくら社協だよりの紙面刷新検討	23
			② なるほど社協 第4版作成	23
			③（新）Instagram運用の定着及び積極的な活用	23
			④ イメージキャラクターの適正な運用	24
	2 福祉功労者表彰事業	1 広報啓発イベント・行事の開催	① 地域福祉推進感謝の集いの開催	24
	3 福祉まつり事業		② 鎌倉福祉まつりの開催	26
3 ボランティアセンター活動事業	1 ボランティアセンター運営事業	1 ボランティアの活動支援	①ボランティア活動に関する相談受付及び分析	27
			②施設部会でのボランティアニーズの調査	27
			③ホームページ等でのボランティアニーズの情報発信	28
			④個人登録「はじめの一步」及びボランティア団体登録	28
			⑤ボランティア活動保険の加入手続きと保険料助成	28
			⑥ボランティア団体への助成	29
			⑦ホームページ等によるボランティア団体の紹介	29
			⑧地下道ギャラリー、鎌倉FMでの団体紹介	29
		2 ボランティアの育成・啓発	① ボランティア入門講座の開催	30
		②鎌倉市ボランティア連絡協議会 会員向け研修会開催	31	

		3 鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携	① 鎌倉市ボランティア連絡協議会役員会・委員会へ出席	31
			② ボランティアセンター運営委員会の開催	31
	2 福祉教育・研修事業	1 福祉教育の推進	① 福祉教育メニュー拡充	32
			② 校長会・教頭会等へ福祉教育プログラムの紹介	33
			③ 地域住民へ向けた福祉教育プログラム実施	33
	3 災害ボランティアセンター準備事業	1 災害に備えた運営体制の準備	① 三者協議の開催	34
② 災害ボランティアセンター企画会議（仮称）の開催			34	
4 地域福祉推進事業	1 地域福祉推進事業	1 多機関連携による相談対応	① なんでも相談窓口の運営・拡充	35
		2 地区社協活動等への支援	① 地区社協等の活動への参加・協働	36
		3 物品の貸出し	① 車いすの貸出し	36
	② 催事用テントや綿菓子器等の貸出し		37	
	2 地域福祉活動計画事業	1 かまくらささえあい福祉プラン（第6次地域福祉活動計画）の推進	① 第6次地域福祉活動計画の進行管理	37
	3 部会・委員会活動	1 各種部会の開催	① 地区社協部会の開催	38
			② 団体部会の開催	39
			③ 施設部会の開催	40
	5 居住支援協議会に関する事業	1 多機関連携による相談対応	① 住宅確保要配慮者相談窓口の運営	41
	5 重層的支援体制整備事業	1 重層的支援体制整備事業	1 重層的支援体制整備事業	① 相談支援機関等からの相談受付
② 「参加支援事業」の取組み				42
③ 「多機関協働事業」の取組み				42
④ 「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」の取組み				43
④ 支援関係機関等との連携強化				43
⑤ 研修会の開催				44
6 生活支援体制整備事業	1 生活支援体制整備事業	1 生活支援体制整備事業	① 地域活動や SC の活動に対する関心を促す広報・報告の取組み	46
			② 住民同士の交流の場の支援・企画・実施	46

			③住民に必要な社会資源の整理と活用の取組み	47
			④平時からの声かけ・見守り活動の取組みからつながる要配慮者支援の啓発	47
			⑤協議体設置運営に向けてSCや協議体の機能や役割を地域にわかりやすく伝えるための方法を検討する	47
7日常生活自立支援事業	1日常生活自立支援事業	1日常生活自立支援事業	① 丁寧な聴取りによる相談受付対応	48
			② 適正な支援提供のための局内カンファレンスの開催	48
			③ 生活支援員の専門性向上	49
			④ 支援関係機関等への制度の周知	49
8成年後見センター事業	1成年後見センター事業	1成年後見センター事業	①円滑な制度利用に向けた制度の丁寧な説明	50
			②弁護士や司法書士等による専門相談の定期実施	50
			③市民・事業所向け講演会等による権利擁護の普及啓発	51
			⑤ 市民後見人の育成・活動支援	52
			⑥ 親族後見人支援	52
			⑥（新規）鎌倉市成年後見制度利用促進協議会の運営	52
9法人後見事業	1法人後見事業	1法人後見事業	① 相談内容や対応状況の共有	53
			② 職員の専門性の向上	54
			③ 法人後見審査会の開催	55
10生活困窮者自立支援事業	1就労準備支援事業	1就労準備支援事業	① 就労準備プログラムの作成	55
			②就労準備支援プログラムへの協力企業や団体の拡充	56
			③利用者への柔軟で多様な支援の取組み	57
11 援護事業	1 緊急援護事業 資金貸付事業	1 緊急援護金の貸付・支給	① 緊急援護金の貸付・支給	57
	2生活福祉資金貸付事業	1生活福祉資金の貸付・償還相談の実施	①通常の生活福祉資金の貸付相談・償還相談	57
			② コロナ特例貸付等の償還相談	58
	3年末たすけあい援護事業	1年末たすけあい援護事業	① 年末たすけあい募金の配分	59

	4 災害見舞金等 給付事業	1 その他、生活困窮者や コロナ禍を見据えた取 組み	① 生活困窮者への食糧支援	59
		2 火災等の小災害時に おける緊急一時的な避難 者の受入れ	① 宿泊施設等への避難者の受 入れ調整	60
			② 災害見舞金の支給	60
12 助成事業	1 有償福祉活動 グループ助成 事業	1 有償福祉活動グループ 助成事業	① 在宅福祉サービス活動団体 への助成	61
	2 福祉団体等助 成事業	1 福祉団体等助成事業	① 福祉当事者団体への助成	61
	3 地区社協助成 事業	1 地区社協助成事業	① 地区社協への助成	62
13 地域包括支 援センター事 業	1 地域包括支援 センター事業	1 地域包括支援センター 事業	① 総合相談・支援業務	62
			② 認知症予防への取り組み	63
			③ 介護予防マネジメント	63
			④ 虐待・消費者被害等への対 応	64
			⑤ 介護予防・介護者支援の取 組み	64
14 老人福祉セ ンター運営事 業	1 名越やすらぎ センター 運営事業	1 名越やすらぎ センター 運営事業	① 建物、機械設備の保守点検及 び小破修繕の実施。	65
	2 腰越なごやか センター 運営事業	2 腰越なごやか センター 運営事業	② サークル活動への支援、サー クル作品展及び発表会の実 施。	65
	3 教養センター 運営事業	3 教養センター 運営事業	③ 生活福祉相談、健康相談 福祉法律相談の実施 なんでも相談窓口の設置	66
	4 今泉さわやか センター 運営事業	4 今泉さわやか センター 運営事業	④ マイクロバス、ワゴン車によ る送迎サービスの実施。	66
	5 玉縄すこやか センター 運営事業	5 玉縄すこやか センター 運営事業	⑤ 一般教養講座、専門講座、年 間講座、健康づくり講座、生 活講座の実施。フェスティバ ル等事業の実施。	67
			⑥ 施設利用者と地域の子もか ら大人・高齢者が交流できる 事業の実施。	67
			⑦ 協定にもとづく小災害時の避 難所運営及び大規模災害時の 福祉避難所運営への協力。	68

### Ⅲ 重点とする主な事項

#### 1 事業周知と組織基盤の強化

##### (新規)インスタグラム運用の定着及び積極的な活用 ≪事業区分別の取組み P23≫

###### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

###### 【取組みの概要】

令和6年9月に要綱改正を終え、12月にSNS運用担当者を選出しました。また、3月4日に第1回SNS運用担当者会議を開催し、会議の役割、今後の取組み予定などについて共有しました。投稿回数は、ホームページは59回（前年度62回）、Facebookは82回（前年度140回）、インスタグラムは78回（前年度89回）投稿を行いました。また、フォロワー数は、Facebookは564名（前年度543名）、インスタグラムは481名（前年度91名）という状況です。

###### 【取組みの成果】

令和5年8月に開設したインスタグラムについては、投稿回数が減っているものの、フォロワー数は前年度の約5倍と伸びています。SNS運用担当者を中心に、SNS運用の活発化を図ります。

###### 【今後の課題】

要綱改正、SNS運用担当者の選任が遅れた影響で、令和6年度は組織的な運用が図れませんでした。要綱に基づく担当者会議を開催し、軌道に乗せていくことが課題です。

##### (新規)経理事務の委託化に向けた検討 ≪事業区分別の取組み P20≫

###### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

###### 【取組みの概要】

令和6年度は、令和5年度経理事務システム未導入であった老人福祉センターに対して、事業者であるユニビスタシステムズ株式会社から講師を招いて研修を実施し、研修後から順次運用を開始しました。

経理事務システムの刷新については、7月24日に経理事務システム導入状況に関するアンケート調査を実施しました（県内15市社協）。10市社協からの回答があり、今後追加調査、視察などを必要に応じて実施する予定です。また、経理事務システムを扱う事業者を招き、システムの概要説明を受け理解を深めました。同時に、事業者から見積書を徴し7年度予算反映を目指しましたが、初期費用、ランニングコストが予想以上に高く、軌道修正を余儀なくされ、令和7年度に向けた対応策について課内協議を継続しています。

業務委託の可否については、令和4年度に視察に赴いた湘南ビジネスマネジメントに対して見積書を徴するための仕様書作成を行っている段階で検討には至りませんでした。

### 【取組みの成果】

15 市社協にアンケート調査を実施したことにより、各市の状況を把握できたことは大きな成果でした。ただ、本会との大きな差がなく、導入に係る費用捻出が大きなネックとなっていることが伺えました。

### 【今後の課題】

令和8年度予算計上に向け、7年度上半期までには視察、聴き取り調査、業者調整などを行い、経理事務システムの導入、委託業務の開始を目指します。

## 2 災害ボラセンの設置運営に向けた取組み 《事業区分別の取組み P33》

### (新規)災害ボランティアセンター企画会議(仮称)の開催によるマニュアルの点検及び災害時に備えた各種取組みの検討・実施

#### 【自己評価】

4 想定より取組めた

#### 【取組みの概要】

令和6年5月に三者協議（市福祉総務課・総合防災課、鎌倉青年会議所、本会）を行い、令和6年度における災害ボランティアセンター事業の方向性について認識合わせをしました。6月には災害ボランティアセンター連絡会議（企画会議改め）（以下、「連絡会議」という。）を立上げ、災害時に備えた取組みについて必要な協議を行いました。連絡会議の構成員は三者に加え、鎌倉市ボランティア連絡協議会及び鎌倉市市民活動センターから選出を依頼しました。

令和6年度は主に①kintone（災害ボランティアセンター運営支援システム）、②災害ボランティアセンター研修、③講演会の3点について協議しました。

	開催日	内容
第1回 三者協議	令和6年 5月27日	(1) 令和6年度の災害ボランティアセンター事業について (2) 災害ボランティアセンター連絡会議（仮称）の立上げについて
要綱制定	6月20日	社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会鎌倉市災害ボランティアセンター連絡会議設置要綱を制定しました。
第1回 連絡会議	6月24日	(1) kintone について (2) 災害ボランティアセンター研修について (3) 講演会について
第2回 連絡会議	9月2日	(1) 社協だより8月号「災ボラ関連の情報をお届けします」メールアドレス登録状況について

		(2) 10月災ボラ研修について (3) 1月講演会について (4) 1月災ボラ設置運営訓練について
研修	10月9日	もしもの時のために災害への備えセミナーを開催した。約50人参加。 〔内容〕 ・鎌倉市のハザードマップ活用セミナー ・実際の被災地での医療支援について知り、自ら災害へ備えよう ・鎌倉市災害ボランティアセンターについて 講師等：鎌倉市総合防災課職員、酒井 太郎氏（防災士ネット代表）、 本会職員
第3回 連絡会議	10月23日	(1)10月開催「もしもの時のために災害への備えセミナー」振返り (2)1月予定「防災と福祉の講演会」について (3)1月予定「災ボラ設置運営訓練」について
講演会	令和7年 1月18日	防災と福祉の講演会開催 テーマ：大規模災害における被災地支援の現状 ～救える命があればどこまでも～ 講師：特定非営利法人アムダ副理事長 難波 妙 氏他
設置運 営訓練	1月27日	場所：鎌倉武道館 ・館内にブルーシートを敷き、マニュアルに沿って各ブース（受付・オリエンテーション・マッチング・資機材貸出・配車）の設置及び導線の確認をした。参加者は三者及び本会職員。
第4回 連絡会議	2月12日	(1)1月18日（土）防災と福祉の講演会振返り (2)1月27日（月）設置運営訓練振返り (3)「災ボラ関連の情報をお届けします！」メールアドレス登録状況 (4)令和7年度について

### 【取組みの成果】

連絡会議の構成員は、三者に加え鎌倉市ボランティア連絡協議会及び鎌倉市市民活動センターから選出を依頼し、関係機関と平時から顔の見える関係性を築くことができました。

kintone（以下、「システム」という。）は、現在全国的に被災地の災害ボランティアセンターの運営支援に使用されるようになり、神奈川県下においても県社協が試行的に導入したことから、本会も日頃からシステムに慣れる必要があるため、令和6年度は主にイベントの告知・申込等にシステムを活用しました。また、災害ボランティアセンター設置後の運営をサポートしていただく市民の事前登録システムの前段階として、「災ボラ関連の情報をお届けします」を希望する市民のメールアドレスを登録し、随時情報発信を行いました。現在の登録者数は74名。

災害ボランティアセンター研修では、参加者へ鎌倉市の災害リスクや、災害へ自ら備えることの必要性、鎌倉市災害ボランティアセンターの設置場所や役割について知ってもらうことができました。

### 【今後の課題】

メールアドレス登録者には、災害ボランティアセンターが開設された際に、運営のサポートを呼びかけ、協力いただくことを想定していますが、まだ個別に意向確認が出来ていません。今後は連絡会議を活用し、災害ボランティアセンター運営のサポーター登録システムや、災害ボランティアセンターの運営に特化した研修について検討していく必要があります。

## 3 福祉教育推進事業の充実 《事業区分別の取組み P32》

### 夏休み期間中の子ども向けイベント「夏休み子ども福祉体験」の拡充

#### 【自己評価】

4 想定より取組めた

#### 【取組みの概要】

「夏休み子ども福祉体験」は、福祉に興味がある小学校高学年を対象に開催しました。令和6年度は、親子で参加できるプログラム内容も実施しました。また、鎌倉市教育委員会の後援を受け、市内公立小学校4～6年生を対象に広報用チラシを配付しました。さらに、ミニ縁日の企画・運営に栄光学園生徒会及び鎌倉女学院 社会福祉委員会（令和5年度から引続き）の協力を得ました。

#### 【取組みの成果】

参加児童数は令和5年度から10名増加しました。

ミニ縁日を通して子どもから大人（多世代）までが交流できる機会になりました。

開催日	福祉プログラム項目	参加児童数（他保護者数）	ミニ縁日運営者数
7月23日	車いすユーザーのお話と乗車体験	16名	高校生（鎌倉女学院、栄光学園）21名、ボラ協役員3名
	要約筆記体験	5名	
	盲導犬ユーザーのお話と誘導體験	38名（他保護者18名）	
7月26日	視覚障がい理解と点字体験	11名	高校生（鎌倉女学院）5名、ボラ協役員及びしるばーほーむ職員2名
	サウンドテーブルテニス体験	9名	
	LGBTQ理解と手話体験	15名（他保護者3名）	
計	延べ6項目	延べ94名（延べ21名）	延べ31名

### 【今後の課題】

令和5、6年度は福祉センターで開催しましたが、かまくらささえあい福祉プランに基づき、令和7年度以降は、地域開催についても検討していく必要があります。

## 4 重層的支援体制の整備 《事業区分別の取組み P41》

### Libero かまくらは多機関が協働する上で、つなぎや調整機能を担い多機関連携ネットワークの

充実を図る。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

複雑化・複合化した課題を抱える世帯支援を行うには、分野を越えた複数の支援機関の関わりが必要になります。多機関が協働するため、丁寧なアセスメントを行い、支援の方向性の整理を行います。その上で課題の軸を見定め、多機関連携ネットワークにおける支援者の核を定めていきます。

【取組みの成果】

多機関協働事業者として、分野別の支援会議等に参加し（37回）全体を俯瞰した立場で課題の解きほぐし、支援方針の検討を相談支援機関等と協働し行いました。

【今後の課題】

各分野の支援機関が関わっているため、課題感のすり合わせや支援の方向性（見立て）を示していくことに難しさが課題と感じます。的確なアセスメントを行い、課題を焦点化し支援機関の核を定めていくために支援プランの作成（同意が得られていないケースも含む）が必要と考えます。

## 5 老人福祉センター

指定管理期間(5年間)での実施または未実施の検証を行い、できる事業を確実に実行。さらに次期応募にむけた準備に取り組む。《事業区分別の取組み P65》

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

令和6年度は、施設の管理運営や講座等は老人福祉センター業務仕様書や指定管理事業計画書及び自主事業計画書に沿って確実な実施に取り組みました。また、過去3年間の事業検証と精査に取り組みました。さらに、次期指定管理公募に向けて調査・研究を行い応募にむけた準備に取り組みました。

【取組みの成果】

各施設とも、老人福祉センター業務仕様書及び指定管理事業計画書に沿って取組んだことによって、施設利用者が安全で安心して利用ができる施設運営をすることができました。

また、次期指定管理公募に向けて、過去3年間の事業検証や精査、調査研究を行い、準備に取り組みました。

### 【今後の課題】

各施設共に、建物及び設備の老朽化が進み、大規模な修繕を必要とする個所が増加しています。施設設置者である鎌倉市による大規模修繕が必要な時期であり、鎌倉市との協議の継続が必要です。また、次期指定管理公募に向けた取り組みを進めます。

## 多世代交流事業のさらなる充実に取り組む。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

多世代交流事業を始めてから3年が経過しました。この間、事業内容の幅も広がり、ノウハウの蓄積もできてきました。令和6年度はさらに内容の幅を広げるとともに、各施設で評判が良かった内容を他施設でも取組みました。

### 【取組みの成果】

事業開始から3年間の実績により、事業の企画内容も幅が広がりました。参加者の満足度も向上しています。

### 【今後の課題】

さらに事業の企画内容の幅を広げ、過去3年間に評判の良かった企画や幅広い年代が参加しやすい企画に取り組み、さらなる参加者の増加や満足度の向上に取り組む必要があります。

## 大規模災害に備えた施設づくりに取り組む。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

大規模災害時に備えて、市に協力して福祉避難所運営協力の準備や設置運営訓練に取り組ましました。また、防災・減災をテーマとした講座を実施することにより、防災意識の向上や住民の支え合いや助け合いの意識醸成に取り組ましました。

### 【取組みの成果】

大規模災害時に各地域の中で配慮が必要な方々を受け入れるために、市が実施する福祉避難所設置運営訓練に参加・協力を行い、発災後の地域福祉の拠点となるべく準備を進めることができました。

また、防災士の団体との協力により、防災・減災をテーマとした講座を実施し、防災意識の向上や自助・共助の意識醸成に取り組ましました。

### 【今後の課題】

大規模災害時の職員の安否確認と各施設への参集に課題が残ります。また、市の福祉避難所の設置・運営訓練を毎年マニュアルに従い実施し、マニュアルの改定も行っていますが、実効性に課題が残ります。

## 各施設を拠点としてさらなる地域福祉の推進に取り組む。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

各施設の事業実施において、社協ならではのネットワークを活かした地域福祉の推進に取り組みました。特に、フェスティバル等事業の実施にあたっては、地域福祉推進の観点をもって取り組みました。

また、大規模災害時に備えて、市に協力して福祉避難所運営協力の準備や設置運営訓練に取り組みました。

### 【取組みの成果】

地域の拠点として、イベントや各種会議を通じた関係団体や他職種との顔の見える関係づくりを進めました。

また、大規模災害時に各地域の中で配慮が必要な方々を受け入れるために、市が実施する福祉避難所設置運営訓練に参加・協力を行い、発災後の地域福祉の拠点となるべく準備を進めることができました。

### 【今後の課題】

地域福祉の拠点として、多世代や地域との交流、介護予防やフレイルを意識した講座の開催や情報発信、各地区の地域包括支援センター等との連携、支援が必要な人の雇用や活躍の場の提供など、さらに強化していく必要があります。

また、福祉避難所の開設にあたり、大規模災害時の職員の安否確認と各施設への参集、職員の意識の向上、市の災害対策本部とどのように連携を図っていくかなど課題があります。

## IV 事業区分別の取組み

### 1 法人運営事業

#### <1 法人運営事業>

#### 1 法人運営のための会議の開催 【総務企画係】

##### ①理事会・評議員会の開催及び改選の円滑な実施

##### 【数値(到達)目標】

理事会は、年5回、評議員会は、年3回開催を基本とし、必要に応じて臨時で開催します。また、年1回以上理事懇談会を開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

理事会を4回開催し、提出された議案はすべて可決されました。

	開催日	主な議案等
第1回	5月17日	1 令和5年度事業報告及び資金収支決算について 2 社会福祉充実計画について 3 令和6年度資金収支補正予算(第1号)について 4 評議員・理事・監事選任候補者の提案について 5 評議員選任・解任委員会委員の選任について 6 規程の一部改正について (地域包括支援センター関連規程)(育児・介護休業規程)
第2回	9月30日	1 一般会員の加入について
第3回	11月22日	1 令和6年度資金収支補正予算(第2号)について 2 評議員選任候補者の提案について
第4回	令和7年 3月19日	1 令和6年度資金収支補正予算(第3号)について 2 規定の一部改正について (事務局職員給与規程)(育児・介護休業規程) 3 令和7年度事業計画及び資金収支予算について 4 評議員選任候補者の提案について

評議員会を3回開催し、提出された議案はすべて可決されました。

	開催日	主な議案等
第1回	6月5日	1 令和5年度事業報告及び資金収支決算について 2 社会福祉充実計画について 3 令和6年度資金収支補正予算(第1号)について 4 理事の選任について

第2回	12月6日	1 令和6年度資金収支補正予算(第2号)について
第3回	令和7年 3月26日	1 令和6年度資金収支補正予算(第3号)について 2 令和7年度事業計画及び資金収支

評議員選任・解任委員会を2回開催し、3名の評議員が選任されました。

	開催日	議案等
第1回	5月22日	評議員辞任に伴い、評議員2名の選任
第2回	11月25日	評議員辞任に伴い、評議員1名の選任
第3回	3月31日	評議員辞任に伴い、評議員1名の選任

理事懇談会を1回開催し、本会運営に関して意見交換、情報共有を行いました。

	開催日	議題等
第1回	令和7年 2月25日	令和6年度収支予算執行状況、事業計画進捗状況等について

#### 【今後の課題】

令和7年度は、理事・評議員の一斉改選となるため、推薦、委嘱手続きを滞りなく進めること。また、理事会、理事懇談会での議論が活発化するよう議事進行に工夫が必要です。

## 2 効率的な組織運営 【総務企画係】

### ① 職員研修の開催

#### 【数値(到達)目標】

年3回以上開催します。年間研修計画を策定し、市との協働研修を1回以上、独自研修を2回以上開催します。

#### 【自己評価】

5 想定よりかなり取組めた 4 想定より取組めた 3 想定どおり取組めた

2 想定より取組めなかった 1 取組めなかった

#### 【取組みの概要】

種別	開催日	研修内容等
業務研修	9月17日	老人福祉センター職員を対象とした経理処理操作等研修
市・社協	12月13日	市保険年金課講師による国保・国民年金制度研修
市・社協	1月15日	市社協の業務概要を各係を講師に研修
市・社協	3月5日	市生活福祉課講師による生活保護、援護業務の研修

#### 【今後の課題】

研修をより計画的、効果的に行うための年間研修計画を策定することができなかつたため、次年度には計画策定を行います。また、市と市社協の合同研修については、研修の目的、内容等について再調整していく必要があります。

## ②(新規)経理事務の委託化に向けた検討及び会計処理の効率化を図る ◆重点事項 1-②

### 【数値(到達)目標】

継続的な経理事務のため委託の可否を検討し、結論を出します。また、老人福祉センター、地域包括支援センターの会計処理システム導入に向けた調整を進めます。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

勤怠管理システムの導入と給与システムと連携したシステムの構築については、システム業者からの説明を受け、見積書及びランニングコスト積算を徴取しました。また、県内社協にシステム導入状況をアンケート調査し、課内で検討を行い、令和7年度導入を先送りし更なる研究を進めるという結論を出しました。

老人福祉センターの会計処理システム導入は、9月の操作研修を踏まえ導入を開始しました。

### 【今後の課題】

勤怠管理システムの導入と給与システムと連携したシステムの構築については、令和7年度に更なる研究・協議を重ね令和8年度予算に計上することを目標に取り組む必要があります。

また、業務の委託または派遣についても検証を重ね、令和8年度予算計上を目指します。

## 3会員の増強 【総務企画係】

### ①一般会員及び賛助会員の募集・紹介 ★活動計画 I-(2)-③

### 【数値(到達)目標】

年 10 名(団体を含む)の一般会員または賛助会員の新規加入。

### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

### 【取組みの概要】

一般会員の新規加入は1団体、賛助会員の新規加入は3名に留まり、目標達成には至りませんでした。一般会員の新規加入については、新規施設に出向き趣旨説明等を行った上で、加入勧誘を行い会員獲得に至りました。賛助会員については、社協だよりにより会員募集および賛助会員の紹介を行うに留まりました。

### 【今後の課題】

新規会員獲得のためには、本会の活動をまず知ってもらうことが第一と考えます。そのためには、あらゆる広報媒体を駆使し積極的な情報発信を行うことが大切であると考えており、令和7年度において意識的な情報発信に努めます。

## 4共同募金・寄付金募集の取組み 【総務企画係】

### ①(新規)共同募金運動全般に渡る業務の検証 ★活動計画 I-(2)-③

### 【数値(到達)目標】

共同募金運動の検証を令和6年7月までに行い、10月からの共同募金運動に反映していきます。

### 【自己評価】

4 想定より取組めた

### 【取組みの概要】

4月から7月までに延べ8回の課内検討を行い、街頭募金の拡充方針を8月開催の理事会で了承をいただき、10月から12月にかけて街頭募金を述べ8会場で16回実施し63団体、267名の協力を得ることができました。

	戸別募金	街頭募金	法人募金	職域募金	学校募金	イベント募金	その他	合計
金額(円)	10,186,236 [10,526,420]	850,161 [568,065]	563,000 [512,934]	139,564 [132,235]	183,542 [177,420]	101,608 [27,928]	385,734 [345,095]	12,409,845 [12,290,097]

[ ]は前年度実績

### 【今後の課題】

街頭募金の拡充や他の募金が令和5年度よりも上回る事ができ、一定の成果を挙げることができました。今後も拡充した街頭募金については継続していきます。令和7年度はイベント募金についての新たな取組み及び年末たすけあい募金の配分見直しを行うことが必要と認識しています。

赤い羽根共同募金は、その使い道の一つとして地域福祉を推進するための事業に充てられていることから、赤い羽根共同募金運動は本会全体で取組んでいくべきものと捉えており、この認識を本会に定着させ、全体での取組みに高めていくことが必要です。

## ②福祉活動振興基金の周知 ★活動計画IV-(3)-①

### 【数値(到達)目標】

本会ホームページ、Facebook、インスタグラムを駆使し福祉活動振興基金の周知を図ります。また、チラシ活用について活用方法を検討し、取組みを進めます。

### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

### 【取組みの概要】

本会ホームページ、Facebook、インスタグラムによる日常活動の様子などは積極的に配信を続けてきていますが、直接的な福祉活動振興基金の周知には取組めませんでした。

### 【今後の課題】

基金を取り崩した活動は行っておらず、基金の運用益を本会会計に組み込み活用している現状です。福祉活動振興基金の周知を進めるためには、基金の活用事例、運用益の活用事例を示していくことも必要と考えており、広報媒体を通じてどう情報提供していくべきか検討します。

## <2 基金運営事業>

### 1 基金の適正な管理運用 【総務企画係】

#### ①福祉活動振興基金管理委員会の開催

##### 【数値(到達)目標】

福祉活動振興基金の新たな運用が必要となっており、資産運用指針に基づいた運用を行ってまいります。そのため、福祉活動振興基金管理委員会を開催し、運用に向けた合意形成を図ってまいります。また、委員長との緊密な連携を図りながら商品購入を行います。

##### 【自己評価】

4 想定より取組めた

##### 【取組みの概要】

	開催日	主な議題等
第1回	6月25日	1 委員長選任 2 市況概況について（SMBC日興証券） 3 福祉活動振興基金の現況について

令和6年度に、次の2銘柄の債権を購入しました。

No.	銘柄	購入先	購入金額	利率 (%)	年間利息見込	発行日	年数
1	ソフトバンクグループ 株式会社 第63回無担保社債	大和証券	50,000,000	3.03	1,515,000	令和 6.6.14	7
2	株式会社三井住友ファイ ナンシャルグループ 第19回期限前償還条項付 無担保社債	SMBC 日興証券	50,000,000	1.393	696,500	令和 6.7.30	10

##### 【今後の課題】

令和6年度改定した「資産運用指針」に基づき、新規に2銘柄を買い付けました。今後、市況等を見ながら、福祉活動振興基金管理委員会正副委員長と相談しながら、新たな買い付けを検討します。

## 2 企画広報事業

### <1 広報啓発事業>

#### 1 広報活動の充実と福祉情報の収集、発信 【総務企画係】

##### ①(新規)かまくら社協だよりの紙面刷新検討 ★活動計画IV-(3)-①

###### 【数値(到達)目標】

編集会議を招集し、紙面刷新に向けた検討を行い、令和7年度発行分から適用します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

課内(7月)での検討、編集会議(8・9・11月)での検討を踏まえ、令和7年度発行分から一部紙面の刷新を行うこととなりました。具体的には、紙面のオールカラー化、見やすい紙面とするため、紙面の整理を行うこととしました。

###### 【今後の課題】

社協だよりの発行月、紙面のサイズ、ページ数、記事内容については、編集会議で検討しきれず持ち越しとなっているため、令和7年度引き続き検討を進め、令和8年度からリニューアルした社協だよりの発行を目指します。

##### ②なるほど社協 第4版の作成 ★活動計画IV-(3)-①

###### 【数値(到達)目標】

令和6年中に改定第4版を作成します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

8月に第4版を発行しました。

###### 【今後の課題】

今回の発行が8月となり、情報提供が遅れてしまいましたが、極力発行月を早め最新情報を市民に届ける必要があると認識しています。

##### ③(新規)Instagram運用の定着及び積極的な活用 ★活動計画IV-(3)-① ◆重点事項1-①

###### 【数値(到達)目標】

各係の運用担当を中心に情報発信を通年で行います。また、イベントの開催・報告、情報提供などの場として、Instagramを積極的に活用していきます。

###### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

###### 【取組みの概要】

投稿回数は、ホームページは59回(前年度62回)、Facebookは82回(前年度140回)、Instagramは78回(前年度89回)投稿を行いました。また、フォロワー数は、Facebookは

564名（前年度543名）、Instagramは481名（前年度91名）という状況です。

運用担当者選任が12月となってしまったため、運用担当者を中心とした情報発信が不十分でした。

#### 【今後の課題】

運用担当者会議を開催し、Instagramをはじめとした広報媒体について、効果的な活用方法の検討、操作方法の周知を図っていく必要があります。

#### ④イメージキャラクターの適正な運用 ★活動計画IV-(3)-①

##### 【数値(到達)目標】

着ぐるみの通年で活用、各種グッズの活用を図りながら、市社協の活動を広報していきます。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

マスコットキャラクター「かまリン」の円滑な活用を行うため、人員体制要綱、啓発物品制作等要綱、着ぐるみ使用要領等を定め、「かまリン」の活用に向けた環境整備を行いました。

また、令和6年度は、令和5年度と同様の8つのイベントに加え、カナガワ・デフ・ウェイに参加し、着ぐるみの参加やかまリンググッズの配布など、「かまリン」を通して本会や福祉についての周知活動を行いました。

##### ●かまリンイベント参加一覧

日付	イベント	日付	イベント
5月19日	大船まつり	11月15日	感謝の集い
7月23日 26日	夏休み子ども福祉体験	11月16日	玉縄まつり
10月6日	カナガワ・デフ・ウェイ	12月1日	福祉まつり
10月26日	なごやかフェスタ	12月8日	西鎌クリスマス会
10月27日	大船福祉まつり		

##### ●かまリングッズ

令和5年度に引き続き、ステッカー(5,000枚)、クリアファイル(1,000枚)を作成しました。

##### 【今後の課題】

イベント等への参加により「かまリン」の周知は徐々に広がっていますが、本会のキャラクターであることの周知が進んでいるかは不明です。また、大きなイベントに参加していない地域(腰越、深沢)があるとともに、休日等のイベントに参加できる職員の確保も課題と考えます。

## <2 福祉功労者表彰事業>

### 1 広報啓発イベント・行事開催 【総務企画係】

#### ①地域福祉推進感謝の集いの開催

### 【数値(到達)目標】

11月開催に向け準備を進めます。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

11月15日(金)午後1時30分から第1・2会議室にて「第16回地域福祉推進感謝の集い」を開催しました。表彰者は、9月30日付けで書面開催した選考委員会において候補者選考を行い確定しました。表彰対象37名3団体のうち、式典には14名2団体の方々が参列しました。また、記念品については、今回から鎌倉ふれあいショップ運営委員会に依頼し、鎌倉ふれあいショップ参加団体による詰め合わせギフトを作成いただき贈呈しました。

#### ●特別表彰8名

敬称略

功労の内容	表彰者
民生委員児童委員として20年以上在職	深見 正美
地区社協役員として20年以上在職	田中 秀文
ボランティア活動にて20年以上貢献	足利 成子 蔵並 弘子 小原 勉 平中 恭子 中野 ひろみ 佐川 初美

#### ●一般表彰(29名3団体)

敬称略

功労の内容	表彰者
民生委員児童委員として10年以上在職	深山 敦子 赤瀬川 由乃 小島 節子 白井 幸子 掛川 一代 和田 恒夫 田島 重雄 高橋 洋子 新村英子 西嶋 薫 沼上 重雄 内海 ひろみ 大貫 正廣 梅澤 つえ 三橋 あい子 金子 扶美子 下川 知鶴子 保田 信彦 葛谷 栄一 吾妻 千恵子 富田 みどり 細谷 正一 大江 久美子
地区社協役員として10年以上在職	掛 川一代 白井 幸子 泉 久枝
本会の役員として10年以上在職	国分 哲男
ボランティア活動にて10年以上貢献	向 孝子 ブランチ大船
福祉活動振興基金に多額の金円を寄付	公益財団法人鎌倉婦人子供会館 円覚寺 小原 勉 (故)小原 和香子

### 【今後の課題】

令和4年度から式典の第2部(アトラクション)を廃止し、賞状授与時及び式典終了後の集合写真撮影を行い、後日写真送付をしています。今後も表彰者への感謝の意を表すため、きめ細やかな対応を心掛け式典運営にあたります。

## <3 福祉まつり事業>

### 1 広報啓発イベント・行事開催 【地域福祉係】

#### ①鎌倉福祉まつりの開催 ★活動計画I-(1)-①

## 【数値(到達)目標】

11月30日(土)の開催に向けて準備を進めます。来場者3,000人を目指すため、近隣小学校にチラシを配架します。福祉団体による作品販売の出店団体を1団体増やします。

## 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

## 【取組みの概要】

第44回鎌倉福祉まつり

【開催日時】 令和6年12月1日(日) 10:00~14:00

鎌倉福祉まつり運営委員会

【第1回】6月17日(月)、【第2回】11月5日(月)、【第3回】12月17日(火)

模擬店部会

【第1回】7月30日(火)、【第2回】12月10日(火)

バザー部会

【第1回】7月11日(木)、【第2回】12月12日(木)

令和5年度の鎌倉福祉まつりは新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの開催となりましたが、猛暑のため体調不良者が出てしまい、令和6年度は冬期開催としました。前日の会場設営及び当日は晴天に恵まれ、大きなトラブルもなくスムーズに実施できました。

来場者は2,000人弱でしたが、舞台催しの出演者は、トップバッターとして新たに小学生のジャズバンドに参加していただき盛大な開幕となりました。

福祉団体による作品販売は、(株)富士ソフト企画の特例子会社によるシイタケ販売が新たに加わり好評でした。

また、初の試みとして市民寄付物品バザーの献品受付や前日のテント設営に市民ボランティアを募集したり、企業からの協賛金品の募集を行いました。その結果、市民ボランティアは4名の参加、協賛金は4者から協力いただくことができました。

## 【今後の課題】

開催時期を変更したことにより、2つの模擬店が他のイベントと重なり不参加となったため、今後開催日の決め方を工夫する必要があります。

令和6年度は近隣小中学校のみチラシを配架しましたが、次年度は配架エリアを全市に拡大することにより来場者増に努めます。

市民ボランティア及び協賛金品の協力者を増やし、より多くの市民が地域福祉への関心を持てるよう、周知を強化する必要があります。

### 3 ボランティアセンター活動事業

#### <1 ボランティアセンター運営事業>

#### 1 ボランティアの活動支援 【地域福祉係】

##### ①ボランティア活動に関する相談受付及び分析 ★活動計画Ⅰ-(1)-①

###### 【数値(到達)目標】

随時ボランティア活動に関する相談を受け、年度末に分析します。分析した結果は、本会内で共有します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

相談者の区分	相談内容	相談件数
ボランティア自身	ボランティア希望、講座について	10
学校	福祉教育事業について	11
施設	ボランティア保険、高齢者疑似体験セットについて	4
保険加入者	ボランティア活動の中止、活動中の事故について	41
活動希望者	ボランティア希望について	43
寄付	介護用品、日用品など	26
ボランティア依頼	ボランティア依頼について	59
その他	市社協事業の運営についてなど	27
(保険申込人数)		(408)
計		221

相談結果の分析を意識しつつ、より広く地域と関わっていくことで、本会の相談窓口としての認知度も上がるような好循環を目指して取組んできました。

###### 【今後の課題】

ボランティア依頼の増加に伴って、全ての依頼に対応しきれないこともあったため、活動者を増やしていくことが課題であり、ボランティア入門講座の地域開催に取り組めます。

##### ②施設部会等でのボランティアニーズの調査 ★活動計画Ⅰ-(1)-①・★活動計画Ⅲ-(3)-③

###### 【数値(到達)目標】

5月に実施します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

5月31日、第四種一般会員である54施設(児童24、障害者11、高齢者19)を対象にボランティアニーズ調査票の回答を依頼したところ、16施設(児童1、障害者5、高齢者10)より回答を得ました。なお、令和6年度のニーズ調査は、コロナ禍以降で初めて再開できました。

9月6日、施設部会(高齢者種別会議)を開催し、高齢者種別15施設(20施設の内)の施設

長及び事務長とニーズ調査結果を共有し、ニーズ調査に基づくボランティアの受入れを依頼しました。また、集いの場や居場所づくりの提供について多くのご意見をいただきました。

**【今後の課題】**

ボランティアをしたい方、してほしい方の相談が増えてきているため、ボランティアニーズがある福祉施設に対してボランティア活動者をマッチングできるような機会を創出していく必要があります。

**③ホームページ等でのボランティアニーズの情報発信** ★活動計画IV-(3)-①

**【数値(到達)目標】**

5月に実施したボランティアニーズ調査の結果を、6月中にホームページ等で情報発信します。

**【自己評価】**

1 取組めなかった

**【取組みの概要】**

「市社協 HP 掲載不可」にて回答された施設等を対象に確認作業を行ったため、ホームページの更新が遅れました。

**【今後の課題】**

ホームページ以外にもボランティア情報にアクセスできるような発信の方法を検討する必要があります。

**④個人登録「はじめの一步」及びボランティア団体登録** ★活動計画IV-(3)-①

**【数値(到達)目標】**

年度末に登録の継続について意向確認を行います。(新年度以降は随時受け付けます。)

**【自己評価】**

2 想定より取組めなかった

**【取組みの概要】**

個人登録「はじめの一步」登録者数	22名(継続10名)
ボランティア団体登録数	62団体
ボランティア団体登録者数	1,570名

個人でボランティア活動を希望する相談者に「はじめの一步」の登録を、また、ボランティア団体に本会ボランティアセンターへの登録を案内しました。

**【今後の課題】**

個人登録者のニーズがボランティア活動に結び付かず、登録後のフォローが出来ていません。ボランティアグループでは、会員の高齢化による活動休止が毎年発生しているため、対策を検討する必要があります。

**⑤ボランティア活動保険の加入手続きと保険料助成**

**【数値(到達)目標】**

年度末に本会登録団体及び地区ボラセンの登録者に対し、ボランティア活動保険の加入手続き及び

保険料を助成します。(新年度以降は随時受付けます。)

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

4月に本会登録57団体(62団体の内)及び腰越・大船・玉縄地区ボラセンの登録者である総計1,453名を対象にボランティア活動保険の加入手続き及び保険料合計508,550円を助成しました。

**【今後の課題】**

引続き、助成金を必要としている団体への有益な助成金交付を検討していく必要があります。

**⑥ボランティア団体への助成**

**【数値(到達)目標】**

6月に申請があったボランティア団体に助成金を交付します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

本会ボランティアセンターに登録している62団体のうち17団体から助成金の申請を受け、申請額のとおり交付しました。(助成総額905,000円)

**【今後の課題】**

助成金をより多くの団体に有効活用していただくため、周知の強化が必要です。

**⑦ホームページ等によるボランティア団体の紹介** ★活動計画IV-(2)-②

**【数値(到達)目標】**

5月に実施します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

4月時点で登録団体を全て紹介しました。

**【今後の課題】**

より活動内容がわかりやすく、参加したくなるような紹介方法を工夫します。

**⑧地下道ギャラリー、鎌倉エフエムでの団体紹介** ★活動計画IV-(2)-②

**【数値(到達)目標】**

地下道ギャラリーにおいては年2回、計40団体の紹介をします。

鎌倉エフエムにおいては月1回、計12団体の紹介をします。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

登録団体・地下道	6月25日～7月1日
ギャラリー展示	9月17日～9月24日

鎌倉 FM 出演月	出演団体名
4月	日本語 COSMOS
5月	人形劇団「いちばん星」
6月	鎌倉市点訳赤十字奉仕団
7月	ボランティア倶楽部
8月	KOC ボランティアグループ
9月	鎌倉マンドリンアンサンブル
10月	鎌倉マジシャンズクラブ
11月	さくら会
12月	大船地区ボランティアセンター
1月	玉縄ボランティアセンター
2月	ふらっとカフェ鎌倉
3月	鎌倉えんぴつの会

**【今後の課題】**

本会ボランティアセンターに登録されているボランティアグループをより広く周知するため、パネル展示は地下道ギャラリーだけではなく、各地域での展示も必要です。

**2 ボランティアの育成・啓発 【地域福祉係】**

①ボランティア入門講座の開催 ★活動計画 I-(1)-②

**【数値(到達)目標】**

令和7年1月開催予定。

**【自己評価】**

4 想定より取組めた

**【取組みの概要】**

講座名	開催日時	内容
大町地区ボランティア入門講座 (地域開催)	11月2日 11月16日	(1) ボランティア活動について (本会職員) (2) 自然災害と地域活動について (かまくら防災士ネット) (3) 高齢者の心身の特徴について (包括鎌倉きしる)
ボランティア入門講座	令和7年1月31日	(1) ボランティアグループの立上げ、運営について (KOC ボランティアグループ代表 伊藤甲之介氏) (2) ボランティア活動について等 (鎌倉市社協)

大町地区ボランティア入門講座では一般参加者3名の実績でした。

**【今後の課題】**

令和6年度の大町地域での開催と同様に各地域での開催を検討し、より多くの活動者に対してボランティア活動への参加を呼びかける必要があります。

**②鎌倉市ボランティア連絡協議会 会員向け研修会開催**

**【数値(到達)目標】**

年2～3回開催します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

研修会日程	研修会内容
6月20日(ボラ協委員会)	盲導犬ユーザーのお話 (当事者講師)
8月15日(ボラ協委員会)	かまくら防災士ネットの被災地支援活動のお話し (本会職員 代読)

上記のとおり2回実施し、盲導犬ユーザーの話では30名、被災地支援活動の話では20名の参加がありました。

令和6年度の盲導犬ユーザーの話は会員から初めて知ったことが多かったとの声も多く、ボランティア活動者自身に役立つノウハウのみでなく、大人のための福祉教育の場となりました。

**【今後の課題】**

ボランティアグループ同士の交流と情報交換を目的に、ボランティアセンター登録団体のうち新規登録団体には積極的に研修会の講師としての協力を依頼します。

**3 鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携 【地域福祉係】**

**①鎌倉市ボランティア連絡協議会 役員会・委員会への出席**

**【数値(到達)目標】**

毎月1回の役員会及び偶数月1回の委員会に出席します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

毎月1回の役員会及び偶数月1回の委員会に出席し、顔の見える関係性づくりに努めました。

**【今後の課題】**

役員の担い手が不足しており、役員会の仕事の見直しが必要です。

**②ボランティアセンター運営委員会の開催**

**【数値(到達)目標】**

7月、12月に開催します。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

開催日時	内容
7月3日	(1)かまくらボランティアセンターの活動報告及び予定について (2)令和6年年度かまくらボランティアセンターの運営について
12月17日	(1)第1回ボランティアセンター運営委員会の振り返り (2)かまくらボランティアセンターの活動報告及び予定について (3)令和7年年度かまくらボランティアセンターの運営について

上記のとおり2回開催し、各委員より活発な意見をいただきました。

【今後の課題】

引続き、意見交換の場を設ける必要があります。

## <2 福祉教育・研修事業>

### 1 福祉教育の推進 【地域福祉係】

①福祉教育メニュー拡充 **★活動計画 I-(2)-①** **◆重点事項3**

【数値(到達)目標】

地域や企業等対象に則した福祉教育プログラムを検討します。

【自己評価】

4 想定より取組めた

【取組みの概要】

区分		実績	参加者 (延べ)
小学校	公立	11校	1,107人
	私立		
中学校	公立	16校	890人
	私立	3校	507人

【今後の課題】

地域や企業を対象にした福祉教育を推進するため、福祉教育プログラムの内容の見直しが必要です。

### ②夏休み期間中の子ども向けイベント「夏休み子ども福祉体験」の拡充

【自己評価】

**★活動計画 I-(2)-②**

**◆重点事項3**

4 想定より取組めた

【取組みの概要】

- ・福祉に興味がある小学校高学年を対象に「夏休み子ども福祉体験」を開催しました。  
ミニ縁日の企画・運営に栄光学園生徒会及び鎌倉女学院 社会福祉委員会の協力を得ました。
- ・開催日：令和7年7月23日・27日

- ・内容：車いすユーザーのお話と車いす体験、要約筆記体験、盲導犬ユーザーのお話と誘導體験、視覚障がい理解と点字体験、サウンドテーブルテニス体験、LGBTQ 理解と手話体験、福祉体験後のミニ縁日

- ・参加人数：市内小学校高学年 延べ 94 名、保護者延べ 21 名

**【今後の課題】**

令和 5、6 年度は福祉センターで開催しましたが、かまくらささえあい福祉プランに基づき、令和 7 年度以降は、地域開催も検討していく必要があります。

**③校長会・教頭会等へ福祉教育プログラムの紹介** ★活動計画 I-(2)-①

**【数値(到達)目標】**

必要に応じ、年度内1～2回福祉教育プログラムを紹介します。

**【自己評価】**

2 想定より取組めなかった

**【取組みの概要】**

会議名	日程
校長会	4 月 8 日
教頭会	4 月 12 日
鎌倉市学校教育研究会小学校総合部会	5 月 8 日
鎌倉市学校教育研究会中学校総合部会	

**【今後の課題】**

教育機関に限らず、地域や企業向けに福祉教育プログラム紹介の機会を設ける必要があります。

**④地域住民へ向けた福祉教育プログラム実施** ★活動計画 I-(2)-①

**【数値(到達)目標】**

学校関係以外での福祉教育プログラムを年間3件以上実施します。

**【自己評価】**

4 想定より取組めた

**【取組みの概要】**

区分		実績	参加者（延べ）
その他	放課後かまくらっ子	6 か所	250 人
	成人等	11 か所	357 人

その他…自治会、ボランティアグループ、児童養護施設、市障害福祉課、県立藤沢支援学校  
鎌倉分教室など

**【今後の課題】**

企業を対象とした取組み実績がないため、実現に向けた取組みが必要です。

### <3 災害ボランティアセンター準備事業>

#### 1 災害に備えた運営体制の準備 【地域福祉係】

##### ①三者協議の開催 ★活動計画Ⅲ-(2)-② ◆重点事項2

###### 【数値(到達)目標】

年2回以上開催します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

年度初めに三者協議を開催し、令和6年度の災害ボランティアセンター事業の方向性について認識合わせをしました。その後は随時メールや電話等で連絡を取り合い、連絡会議での議題や研修内容、講演会内容、設置運営訓練について協議しました。

###### 【今後の課題】

令和6年度は主に平常時の取組みについての協議に多くの時間を要しました。今後は、発災直後から災害ボランティアセンター設置までの工程について、三者の実際の動きや役割分担を確認し、共有する必要があります。

##### ②災害ボランティアセンター企画会議(仮称)の開催 ★活動計画Ⅲ-(2)-② ◆重点事項2

###### 【数値(到達)目標】

年3回以上開催します。

###### 【自己評価】

4 想定より取組めた

###### 【取組みの概要】

令和5年度の三者協議で決まった連絡会議について、計画通り立ち上げることができました。本会が事務局をつとめ、研修内容、講演会内容、設置運営訓練等について協議しました。※詳細は p. 12~14Ⅲ重点とする主な事項に掲載しています。

###### 【今後の課題】

災害ボランティアセンターの運営をサポートしてくださる市民の事前登録の方法や、災害ボランティアセンターの運営場面に特化した研修を行い、いざというときに多くの市民の協力のもと動くことができる体制づくりが急務です。

## 4 地域福祉推進事業

### <1 地域福祉推進事業>

#### 1 多機関連携による相談対応 【地域福祉係】

##### ①なんでも相談窓口の運営・拡充 ★活動計画Ⅳ-(1)-①

## 【数値(到達)目標】

老人福祉センターを会場とした「なんでも相談」の実施

「なんでも相談」周知用チラシの作成・配付

## 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

## 【取組みの概要】

令和7年1月から5つの老人福祉センターに地区担当職員及び生活支援コーディネーターを1～2名配置し、来館者からの相談を受付ける予定です。その場で解決ができなくても、福祉センターの社協職員と連携し解決方法を検討するなど、しかるべき窓口へつなげるような体制を作ります。周知用のチラシは、各老人福祉センターに配架したり来館者へ配布しました。

月 日	場 所	時 間	相談件数
1月29日(水)	今泉さわやかセンター	10:00～12:00	0件
2月6日(木)	玉縄すこやかセンター	10:00～12:00	1件
2月21日(金)	名越やすらぎセンター	10:00～12:00	3件
3月7日(金)	教養センター	10:00～12:00	0件
3月19日(水)	腰越なごやかセンター	10:00～12:00	3件

### ●本部で受付けた「なんでも相談窓口」の取組み概要

令和6年度の相談件数は99件(12月1日現在)で、令和5年度の72件を上回りました。これは「なんでも相談窓口」の機能が徐々に周知されてきたことが要因と思われます。

つなぎ先が必要な場合は、事前に先方に確認してから相談者に紹介するなどし、相談のたらいまわしにならないよう注意しました。主なつなぎ先は、鎌倉市、地域包括支援センターでした。また、市や他団体からも様々な相談が寄せられるようになり、連携が図れる関係性が構築されてきました。

### ●相談等件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8	13	9	15	17	14	5	15	3	10	14	10	133

### ●相談内容

家族関係	4件	食糧支援関係	4件
高齢当事者	22件	コロナワクチン関係	0件
障害当事者	14件	活動・居場所関係	9件
認知症当事者関係	0件	傾聴	1件
情報関係	41件	その他	38件
		合計	133件

## 【今後の課題】

老人福祉センターでも日頃相談を受けているため、本会事務局と連携し本会全体でどのように対応していくか検討が必要です。

## 2 地区社協活動等への支援 【地域福祉係】

### ①地区社協等への参加・協働 ★活動計画Ⅲ-(1)-①

#### 【数値(到達)目標】

各地区社協・自町連等の会議等に出席、ネットワークを構築します。地域の会議やサロン活動、給食(配食)事業等に協力すると共に、問題や困りごとについて一緒に考え、解決に向けて取組みます。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

各地区社協の役員会や、自町連等の会合に出席して、相互に連携を図り情報交換を行うことによってネットワークを構築することができました。

#### 【今後の課題】

各地区社協や自治会に関係する構成員の高齢化による新たな担い手づくりが課題です。

## 3 物品の貸出し 【地域福祉係】

### ①車いすの貸出し

#### 【数値(到達)目標】

年1回は市社協 SNS 等で広報活動を行っていきます。

#### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

#### 【取組みの概要】

鎌倉市障害福祉課や、市観光協会と当会の車椅子貸出規定について情報を共有し、車椅子貸出し希望の問合せが入った際に、利用者の状況を確認した上で必要に応じて本会利用を案内してもらうこととしました。

原則1か月の貸出期限より長期延滞している利用者に対し、こまめに返却依頼を行い貸出し可能な車椅子確保に努めました。

貸出し時において利用可能期間を伝え、車椅子を一時的に必要とする市民へ広く貸出しを行っている旨を説明し、やむを得ない状況をのぞき返却期限を守ってもらえるよう促しました。

また、利用者の居住エリアに応じ、各支所(地区社協所有)でも貸出し、可能な車椅子の取り扱いがある旨の情報提供を行いました。SNS等を活用した貸出しの呼びかけまではできませんでした。

備品の種類	貸出件数及び回数
車いす	99件

#### 【今後の課題】

利用希望が集中する時期に対応できるよう、貸出し時に利用希望期間の確認を行い、必要最低限の日数での貸出案内、返却期限の順守を促すことで、貸出可能台数の安定的な確保と、必要とする市民へ広く貸出しが可能となる体制づくりに努める必要があります。SNS等での広報活動は実施に至らず、令和7年度以降に取り組んでいきます。

## ②催事用テントや綿菓子器等の貸出し

### 【数値(到達)目標】

年1回は市社協 SNS 等で広報活動を行っていきます。

### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

### 【取組みの概要】

夏休み子ども福祉体験開催時に器材を活用し、後日その状況を SNS にアップすることで器材の保有をアピールすると共に、福祉センター利用者で器材利用の可能性があると思われる個人・団体に無償貸出について案内するよう心掛けました。

貸出機器の使用方法、貸出前後の機器の状態、必要に応じ、機器の清掃、動作確認を行うことで安定した機器の貸出ができるように努めました。

機器メンテナンスに関し、おもちゃ Drs. かまぐらの協力を仰ぎ、修理をしてもらうことで継続的な貸出しが可能になるよう、また修繕コストが予算内で収まるよう努めましたが、SNS 等を活用した貸出しの呼びかけまではできませんでした。

備品の種類	貸出件数及び回数
催事用備品	71 件

### 【今後の課題】

貸出希望が増加する時期の前に、機器の定期的メンテナンスを実施することで、安定的な貸出しに努め、貸出後に機器の使用が出来ない等のトラブルを未然に防ぐ体制作りを整える必要があります。SNS 等での広報活動は実施に至らず、令和 7 年度以降に取組んでいきます。

## <2 地域福祉活動計画事業>

### 1 かまぐらささえあい福祉プラン(第6次地域福祉活動計画)の推進 【地域福祉係】

#### ①第6次地域福祉活動計画の進行管理

### 【数値(到達)目標】

かまぐらささえあい福祉プラン推進等委員会を年2回(9月・2月)開催します。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

かまぐらささえあい福祉プラン(第6次地域福祉活動計画)は、令和6年4月から令和11年3月までを計画期間として策定しました。

令和6年度は、本プランの進行管理を行うため、新たにかまぐらささえあい福祉プラン推進等委員会を組織し、定期的に地域福祉推進のより効果的な取り組み内容等について協議を行いました。また、本会組織内においても、計画に基づく各々の取組みの実践や計画全体の進捗状況を共有する場、取組み方法に関する協議・検討の場として係長会議を開催しました。

また、地区社協役員会や各種団体の定例会など、人が集う場で本プランの周知を図るため、

ダイジェスト版を作成し、配付しました。

	開催日	内 容
第1回 推進等 委員会	9月20日	(1) 正・副委員長の選任について (2) かまくらささえあい福祉プラン（第6次地域福祉活動計画）について (3) 令和6年度上半期の報告及び下半期の予定について (4) ダイジェスト版（素案）について
第1回 係長会議	9月5日	(1) かまくらささえあい福祉プランについて (2) 係長会議の位置づけについて (3) 32の小項目の割振りの担当係の確認
第2回 係長会議	12月16日	(1) 令和6年度（プラン1年目）の取組みについて (2) 老人福祉センターにおける「なんでも相談窓口」の試行実施について
第2回 推進等 委員会	令和7年 2月21日	(1) 令和6年度かまくらささえあい福祉プラン進捗状況について (2) 令和7年度にむけて～鎌倉市地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係 について～ (3) 各委員の取組み及び課題について

#### 【今後の課題】

令和7年度以降に新たに取組む項目が多いため、関係機関と協力しながら計画的に実施する必要があります。

### <3 部会・委員会活動>

#### 1 各種部会の開催 【地域福祉係】

##### ①地区社協部会の開催 ★活動計画IV-(2)-②

##### 【数値(到達)目標】

年4回は地区社協部会(もしくは会長会議)を開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

地区社協部会では地区社協助成金、地区社協概要書の更新、かまくらささえあい福祉プランについて協議しました。地区社協助成金については、給食事業費について令和7年度以降継続協議となることについて共有しました。地区社協概要書については、令和2年度版以降4年ぶりの発行となりました。かまくらささえあい福祉プランについては、プラン内に記載されている支え合いや助け合いの活動と仕組みづくりのきっかけとなるための地域福祉講演会を開催し、地縁組織が主体となる地域福祉の重要性について講義をお願いしました。

	開催日	内 容
--	-----	-----

第1回	4月30日	(1) 令和6年度地区社協助成金の申請について (2) 令和6年度地区社協部会関連の年間予定(案)について (3) 地区社協部会の概要(令和6年度版)の作成依頼について (4) かまくらささえあい福祉プランについて
第2回	8月28日	(1) 第6次かまくらささえあい福祉プランについて ・地域福祉講演会について ・令和6年度版地区社協概要書について (2) 令和5年度給食事業の振返りと共有
第3回	11月7日	(1) 市生活福祉課より民生委員児童委員活動における基本活動と自主活動の整理について (2) 地区社協助成金について
第4回	令和7年 3月4日	(1) 令和7年度地区社協助成金について (2) かまくらささえあい福祉プランについて

#### 【今後の課題】

地区社協等の構成員も高齢化傾向の中、いかに地域福祉の推進が可能か、本会助成金の活用方法や担い手の発掘等について、さらに協議を深める必要があります。

#### ②団体部会の開催 ★活動計画Ⅳ-(2)-② ★活動計画Ⅲ-(3)-①

##### 【数値(到達)目標】

年4回は団体部会を開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

年度初めに決定した令和6年度部会運営方針に従い、当事者団体の情報共有に努めました。

令和10年度までに、当事者団体の活動をチラシ、冊子、SNS等の媒体を通して紹介予定のため、令和7年度以降は、各当事者団体の活動の場に社協職員が赴き、ヒアリングを行わせていただく旨、各団体の代表に説明し、理解・協力を求め、当事者団体と意見交換を行いました。

	開催日	内容
第1回	4月24日	(1) 令和6年度度福祉当事者団体助成金について (2) 令和6年度年間予定(案)について (3) かまくらささえあい福祉プランについて (4) 活動状況や課題の意見交換
第2回	7月17日	(1) 事務連絡(第44回福祉まつりについて) (2) 手をつなぐ育成会 活動紹介 (3) その他(今後の団体部会の運営について)

第3回	10月16日	(1) 「青い麦の会」活動紹介 (2) 事務局より（地域福祉講演会、福祉まつりバザー寄付物品協力の案内） (3) 第6次かまくらささえあい福祉プラン 次年度の取り組み
第4回	令和7年 1月22日	(1) 副部会長の選任 (2) 「かまくら福祉・教育ネット」活動紹介 (3) 令和6年度の活動状況・課題の意見交換 (4) その他（介護入門研修、講演会案内）、第6次かまくらささえあい福祉プラン次年度からの取り組みについて

### 【今後の課題】

各団体それぞれが抱える問題には当事者ならではの特性に起因するものが多く、団体部会全体での共通課題を見出すことが難しく、また、当事者をとりまく環境の変化、社会保障制度の整備・拡充、各団体メンバーの高齢化といった理由により、当事者団体そのものの活動が縮小傾向にあります。そのような状況下において、団体相互のつながりを深める取組みや各団体の効果的な周知の取組みなど、団体部会の運営にさらなる工夫が必要です。

### ③施設部会の開催 ★活動計画IV-(2)-②

#### 【数値(到達)目標】

3種別長による会議を開催し、各種別長を通じて各分野の施設宛に情報発信や協力要請を行います。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

	開催日	内 容
第1回	5月30日 【種別長会議】	(1) 第6次かまくらささえあい福祉プランについて (2) 令和6年度鎌倉福祉まつり運営委員会の委員選出について (3) 令和6年度ボランティアニーズ調査票及び施設部会の名簿更新について (4) 意見交換
第1回	9月6日 【高齢者種別会議】	(1) 施設部会について (2) かまくらささえあい福祉プランについて (3) 令和6年度介護に関する入門的研修事業について
第2回	3月24日 【高齢者種別会議】	(1) 災害時における要配慮者の緊急受入れに関する協定について (2) 次期正副種別長の申し合わせ等について (3) 介護に関する入門的研修（基礎講座）について (4) 令和7年度年間スケジュール（案）について

第1回種別長会議の議題(1)では、かまくらささえあい福祉プランの概要及び社会福祉施設と

取組みたい項目を説明しました。議題(3)では、施設部会を対象とするボランティアニーズ調査の再開について説明し、承認を得ました。

#### 【今後の課題】

令和6年度は高齢者種別との協働による取組みとして、「介護に関する入門的研修」講師を2か所の高齢者施設に依頼しました。引続き、児童・障害・高齢の各種別の施設と顔の見える関係性を築くことで、社会福祉施設との協働による地域福祉の取組みを強化する必要があります。

## <5 居住支援協議会に関する事項>

### 1 多機関連携による相談対応 【あんしん生活係】

#### ①住宅確保用配慮者相談窓口の運営 ★活動計画IV-(1)-②

##### 【数値(到達)目標】

高齢者、障害者、外国人、子育て世帯、低所得者等の住宅確保要配慮者へ対してのきめ細やかな相談と多岐にわたっての困りごとにも対応できる相談窓口

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

高齢者、障害者、低所得者などの住居確保が難しい方への相談に応じ、鎌倉市居住支援協議会に加盟する協力不動産店や福祉関係団体と連携し居住支援を行いました。また、鎌倉市居住支援協議会が主催する研修会の企画・実施に協力しました。相談については、単に住宅を探すだけではなく障害と高齢など複合化した課題が背景にあることも多く他機関との連携が今まで以上に必要となっています。

##### 【今後の課題】

令和7年度から本委託事業はなくなる予定ですが、社協全体で居住支援相談をどのような形で継続させて実施できるかが課題です。

## 5 重層的支援体制整備事業

### <1重層的支援体制整備事業>

#### 1 重層的支援体制整備事業 【地域福祉係】

#### ①相談支援機関等からの相談受付 ★活動計画IV-(1)-② ◆重点事項4

##### 【数値(到達)目標】

月1～2件程度、相談支援機関等から相談を受けることを目指します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

令和6年度当初継続相談件数 37 件、新規相談 25 件(うち 7 件終了)、継続相談終了件数 26 件、昨年度から引続き継続相談件数 31 件相談支援機関(当事者及び家族含む)からの相談・調整など延べ回数 1,572 回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
新規相談対応件数(※相談対応票ベース)	1	4	2	2	2	2	5	0	0	4	2	1	25
次月に続く対応	1	4	1	2	2	2	4	0	0	2	0	0	18
終了	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	1	7

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
継続相談対応	未終了累計	37	38	34	35	29	31	33	32	33	31	31	
	対応	7	26	27	27	15	16	22	17	16	15	10	15
	延べ相談件数	131	140	121	111	147	113	141	172	184	131	89	92
	終了	0	8	0	8	0	0	3	1	2	2	0	2

### 【今後の課題】

令和5年度新規相談10件に比べて相談件数は増えているが、相談元に偏りがあります。特に児童分野(教育・こども家庭相談課)からの相談が少ないことから、教育センターやこども家庭相談課で抱えているケースが多いと考えられます。そのため引続き具体事例を交え個別ヒアリングを行うことが必要と考えます。

## ②「参加支援事業」の取組み

### 【数値(到達)目標】 ★活動計画Ⅳ-(2)-①

細やかな(インフォーマル)社会資源をまとめた冊子を作成します。

### 【自己評価】

1 取組みなかった

### 【取組みの概要】

地域づくり事業を担っている生活支援コーディネーターと定期的な話し合いの場を持つことは出来ましたが、具体的な社会資源をまとめるまでには至りませんでした。

### 【今後の課題】

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業を受託したことにより、直接支援を行う機会が増え当事者との関係性が構築されたのち、参加支援事業につなげていくことが少しずつ出来始めました。しかし、どのような社会資源があるか、その都度検討することが多くなってしまったことが課題としてあげられます。

当事者が動き出すタイミングを見逃さず、迅速に参加支援につなげるためには、きめ細かく社会資源等を把握しておく必要があります。今まで以上に生活支援コーディネーターをはじめ地域づくり事業所と連携・協働することが必要と考えます。

## ③「多機関協働事業」の取組み ◆重点事項4

### 【数値(到達)目標】

積極的に支援会議等に参加し全体の調整機能の役割を担います。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

分野別の支援会議等に参加し（37回）多機関協働事業者として、全体を俯瞰した立場で課題の解きほぐし、支援方針の検討を相談支援機関等と協働し行いました。（再掲）

### 【今後の課題】

各分野の支援機関が関わっているため、的確な情報収集を行い、課題感のすり合わせや支援の方向性（見立て）を示していくことの難しさが課題と感じます。その為、更なる的確なアセスメントを行い、課題を焦点化し支援機関の核を定めていくことが必要と考えます。

## ④「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」の取組み

### 【数値(到達)目標】

新規受託事業のため、事業を確立していくことを目指します。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

複雑化・複合化した支援ニーズを抱えながらも必要な支援が届いていない当事者・家族に対し家庭訪問や同行支援を行い、当事者と関係性を構築することができた2件については本事業の申込みをいただき継続的な支援につなげることが出来ました。（内1件は課題に対する支援者が定まったため終了となりました。）

### 【今後の課題】

新規受託事業のため、どこまで行かうか明確に定まっていないことが課題と感じます。相談ケースを通し鎌倉市として本事業をどの様に確立していくか、今後も委託元である市（福祉総務課）と協議していく必要があると考えます。

拒否が強いケースに対するアプローチ方法も課題と感ずるため、多様なアプローチ方法を検討していく必要があると考えます。

## ⑤支援関係機関等との連携強化

### 【数値(到達)目標】

相談支援機関（16カ所）を中心に年2回個別ヒアリングを実施します。

### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

### 【取組みの概要】

相談支援機関及び教育関係機関等に対し個別ヒアリングを行い、支援者が抱える課題等に対し、多機関協働事業者はどのような役割を持ち多機関連携等を進めていくか、昨年よりも理解を求めることが出来ました。併せて日常業務において相談ケースを通し相談支援機関等との連携強化を図りました。

※上半期（7月から9月実施）相談支援機関16カ所、教育センター

下半期に関しては、事業パンフレットが改訂された時点でヒアリング及び配付を行う予定でしたが、改訂作業が間に合わなかったため、実施に至りませんでした。

【今後の課題】

個別ヒアリングだけでなく、委託元である市福祉総務課及び各委託先と Libero に寄せられた具体事例を交え、鎌倉市における重層的支援体制整備事業の全体像について協議の場が必要と考えます。

⑥研修会の開催 ★活動計画IV-(1)-②

【数値(到達)目標】

全体研修会1回、ミニ研修(支援者カフェ)2回開催します。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

●全体研修会

日時	令和6年10月24日 14時～16時	場所	深沢学習センター（きらら深沢） 第6集会室
テーマ	相談支援から地域づくりまで一体的・重層的・包括的な支援体制づくりを目指して		
講師	同志社大学 社会学部社会福祉学科 教授 永田祐氏（社会福祉士）	参加者	相談支援機関・行政機関等 56名

●ミニ研修（支援者カフェ）

日時	令和6年9月27日 10時～12時	場所	福祉センター第1・2会議室
テーマ	新しくできた『こども家庭センター』ってどういうところ？ ～こども分野との連携について学ぼう！～		
講師	こども家庭相談課 林部課長補佐	参加者	相談支援機関・行政機関等 18名

日時	令和7年1月14日開催	場所	福祉センター第1・2会議室
テーマ	こどもを中心とした世帯支援とネットワーク		
講師	教育センター 荒川瑞恵氏	参加者	

【今後の課題】

相談支援機関がどのような学びを求めているか、研修時のアンケートだけでなく個別ヒアリングの際にも聞き取り、背景にあるニーズを分析し研修に活かしていくことが必要と考えます。

1 Libero かまぐらその他の活動

項目	回数等
アドバイザーミーティング	12回
福祉総務課との打合わせ	12回
相談支援機関へのヒアリング・状況調査	17事業者

重層的支援会議	10回
支援会議等	37回
研修会参加	17回
鎌倉市・市社協合同研修会（市社協が取り組んでいる事業概要を知る）	1回
ケアマネ勉強会（腰越・深沢・大船）講師として参加	3回
茅ヶ崎市地域包括支援センター12か所から視察（重層事業の運営状況を説明）	1回

## 6 生活支援体制整備事業

### <1生活支援体制整備事業>

#### 1 生活支援体制整備事業 【生活支援係】

##### ①地域活動や生活支援コーディネーター(SC)の活動に対する関心を促す広報・報告の取組み

★活動計画Ⅳ-(3)-①

###### 【数値(到達)目標】

社協だよりの毎号記事発信(年3回)

Facebook、Instagramへ記事報告、情報発信 60件

###### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

###### 【取組みの概要】

社協だよりの紙面に“こんにちは生活支援コーディネーター(SC)です”の記事を掲載し、広く市民に対してSC活動の周知に取り組むことができました。SNSでの発信はサロン活動など各地区での活動の様子を発信しましたが、想定した数は取り組むことができませんでした。

###### 【今後の課題】

次年度(令和7年度)には、民生委員児童委員の一斉改選が見込まれています。新たに民生委員児童委員として委嘱された方にむけて、SC活動をPRする必要があります。

##### ②住民同士の交流の場の支援・企画・実施

★活動計画Ⅱ-(1)-①

★活動計画Ⅱ-(1)-②

###### 【数値(到達)目標】

5地区に各1ヵ所新規開催を目指します。

外出支援プログラムを1回実施します。

お出かけ型サロンの企画・実施を1回行っていきます。

###### 【自己評価】

4 想定より取組めた

###### 【取組みの概要】

★近所の団らん助成事業は、自宅の部屋を開放したおしゃべり会(今泉台)や、市営住宅の集会所を利用した体操やおしゃべりを中心としたサロン(笛田)など、8ヵ所で新規開催をすることができました。

★外出支援プログラムは、老人福祉センターのワゴン車の空き(日曜日または祝日)を活用して、今回は玉縄すこやかセンター利用登録者を対象として、10月に逗子市の披露山公園に出向くことができました。

★お出かけ型サロンは、自治町内会等に協力を要請して、近隣住民を対象にした日帰りのお出かけ行事を行うものであり、次年度の実施にむけてお出かけ先の選定などの準備に取り組むことができました。

### 【今後の課題】

近所の困らん助成事業の助成のあり方について、ニーズに合わせて事業要綱の一部を改訂しました。今後も地域住民が利用しやすい助成事業にしていく必要があります。

また、お出かけ型サロンの実施にむけて、フライヤーの作成など、PR方法を工夫する必要があります。

### ③住民に必要な社会資源の整理と活用の取組み ★活動計画IV-(2)-①

#### 【数値(到達)目標】

担当地区の社会資源情報の整理・様式の整理を行っていきます。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

各地区の地域包括支援センターと協働して、地域で開催されている高齢者を中心としたサロン情報を“社会資源情報シート”にまとめることができました。まとめた情報は、鎌倉市高齢者いきいき課でホームページに公開していく予定です。

#### 【今後の課題】

情報の更新をどのようにしていくかが課題の一つとしてあげられます。

### ④平時からの声かけ・見守り活動の取組みからつながる要配慮者支援の啓発 ★活動計画III-(1)-③

#### 【数値(到達)目標】

どこか1箇所で声かけ・見守り活動の推進について考えて話し合っていきます。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

深沢地域の第2層協議体（深沢会議）で、ゆるやかな見守り活動をすべての自治町内会に広めていく活動を継続して取組むことができました。さらに、平時のゆるやかな見守り活動が有事（災害時）の際に要配慮者の無事確認などに役立つことについて啓発することができました。

#### 【今後の課題】

今後は、自治町内会を単位とした声かけ・見守り活動と地域で活動する介護などの専門職との連携・協働が課題としてあげられます。

### ⑤協議体設置運営に向けて SC や協議体の機能や役割を地域にわかりやすく伝えるための方法を検討していきます。 ★活動計画IV-(3)-①

#### 【数値(到達)目標】

住民にわかりやすい周知資料(チラシ・パネル等)の作成を行います。

#### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

#### 【取組みの概要】

民生委員児童委員をはじめとする地域福祉活動者や地域住民向けに、SC活動をPRするためのフライヤー作成を企画しましたが作成に至りませんでした。

#### 【今後の課題】

地域住民向けにわかりやすく協議体活動やSC活動を伝えていく手法の再検討が必要です。

## 7 日常生活自立支援事業

### <1日常生活自立支援事業>

#### 1 日常生活自立支援事業 【あんしん生活係】

##### ①丁寧な聴き取りによる相談受付対応

##### 【数値(到達)目標】

高齢や障害により、一人では日常生活に不安のある人が地域で安心して暮らせるよう、本人との契約に基づき、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の支援を通して、その人の権利を擁護します。

##### 【自己評価】

4 想定より取組めた

##### 【取組みの概要】

新規相談については、電話・窓口のみの対応だけでなく、必要に応じてアウトリーチ等により対応するとともに、相談内容によっては関係機関に繋げました。新規契約件数は5件となっています。

##### ●利用者数(新規契約含む)

[ ] は、5年度実績

サービス内容	年間利用者数 (延べ)	新規契約	年度内終了者
福祉サービスの利用支援、日常的な金銭管理	214 [259]	4 [0]	7 [2]
証書や印鑑などの預かり	30 [28]	1 [2]	0 [1]

##### 【今後の課題】

聴取りを行う中で、相談者の意向と支援機関の考えが異なる場合が散見されることから、引き続き、支援機関へ事業の理解を促す必要があると認識しています。また、年度途中で退職等により担当専門員の変更がないよう安定的・継続的な配置に努める必要があります。

##### ②適正な支援提供のための局内カンファレンスの開催

##### 【数値(到達)目標】

作成した支援計画が利用者本人の権利や尊厳が守られているか、利用者本人のためになっているか、定例で月1回、必要があれば臨時に局内カンファレンスを開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

利用者等の支援内容の協議を行う局内カンファレンスを13回開催し、新規契約5件、契約・計画変更26件、契約終了7件について協議しました。令和7年3月末現在の利用者数は17名（高齢等2名、知的6名、精神5名、身体4名）で、うち9名は生活保護受給者です。また、利用者の施設入所、死亡などの利用終了者への対応も局内カンファレンス内で協議・確認するなど、局内カンファレンスを有効に活用することができました。

### 【今後の課題】

ケース処遇の適正化を図るため、質の高い局内カンファレンスを実施していく必要があり、専門員のスキルアップや適正配置が必要と考えます。

## ③生活支援員の専門性の向上

### 【数値(到達)目標】

事業を支える生活支援員の専門性向上のため、県社協主催の研修会に参加します。また、事業推進のため、生活支援員連絡会を年2回、開催します。

### 【自己評価】

4 想定より取組めた

### 【取組みの概要】

県社協主催のZOOM研修に参加した他、生活支援員連絡会（6月17日、2月10日）及び勉強会（9月27日、11月1日）を4回開催し、個別支援(利用者)の状況や課題の共有を図るとともに、支援時の注意事項についても専門員と情報交換を行いました。また、権利擁護関連の情報を共有するため、法人後見担当職員も参加しました。

### 【今後の課題】

県社協等において、経験年数が長い支援員に対する専門的な研修が少ないことから、今後も本会において研修を企画・実施していく必要があります。

## ④支援関係機関等への制度の周知

### 【数値(到達)目標】

地域包括支援センターや障害者相談支援事業所をはじめとする支援関係機関等に対して、制度の広報を行うとともに、周知を図っていきます。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

障害者相談事業所連絡会で説明を行った他、関係事業所や金融機関にパンフレットを配架しました。

### 【今後の課題】

支援関係機関等への制度の広報活動を継続することが大切ですが、対象機関毎に広報をどの様に行うかを工夫する必要があります。

## 8 成年後見センター事業

### <1成年後見センター事業>

#### 1 成年後見センター事業 【あんしん生活係】

##### ①円滑な制度利用に向けた制度の丁寧な説明 ★活動計画IV-(1)-③

###### 【数値(到達)目標】

市民・関係専門機関から電話や窓口等で相談がある都度、随時対応していきます。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

市民・関係専門機関から電話や窓口等で随時、相談(月平均 25 件)に対応しました。内訳は、高齢者が約 7 割、障害者が 2 割、その他が 1 割となっており、後見制度の仕組みを問う内容が多くありました。

###### 【今後の課題】

市民から寄せられる後見相談では、遺言や相続等の話に広がっていくことが多いのが現状であり、相談にあたっては、こうした後見制度を取り巻く周辺の初歩的な知識も職員が身に付けておく必要があります。

##### ②弁護士や司法書士等による専門相談の定期実施

###### 【数値(到達)目標】

毎月1回(年 12 回:原則として第4水曜日の午前中)実施します。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

後見制度の利用の検討にあたっては、複雑な事情や法的な問題を抱えて専門家(弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士)の助言が必要なケースに対応をお願いしています。市民から直接、申し込まれる場合や職員が随時相談を行っている過程で様々な問題が顕在化し、専門相談に繋がることもあります。

###### (1) 専門相談件数

[ ] は、5 年度実績

	認知症高齢者等	知的障害者	精神障害者	その他	計
初回相談	8 [12]	1 [4]	3 [3]	1 [1]	13 [20]
継続相談	0 [1]	0 [1]	0 [0]	0 [0]	0 [2]
合計	8 [13]	1 [5]	3 [3]	1 [1]	13 [22]

###### (2) 随時相談件数

[ ] は、5 年度実績

	認知症高齢者等	知的障害者	精神障害者	その他	計
初回相談	111 [126]	14 [17]	25 [17]	8 [15]	158 [175]

継続相談	98 [ 69]	29 [22]	33 [21]	1 [7]	161 [119]
合計	209 [195]	43 [39]	58 [38]	9 [22]	319 [294]

**【今後の課題】**

法律に絡む複雑な案件は、弁護士が対応することが多い状況ですが、その他の分野においても広く専門職に対応してもらえよう取組んでいきます。

**③市民・事業所向け講演会等による権利擁護の普及啓発**

**【数値(到達)目標】**

市民向け講演会を年2回、事業者向け研修会を年2回開催します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

成年後見制度の利用に関する広報・啓発及び権利擁護の普及啓発を目的とした市民向け講演会の開催や福祉サービス事業所職員向け研修会を次のとおり開催し、権利擁護の普及啓発に努めました。

開催日	内 容	講 師	参加者
4月11日	事業所向け研修 成年後見制度について	本会職員	7名
6月21日	市民向け講演会 自身の想いを形に ～家族信託と成年後見～	司法書士 日永田一憲氏	市民 32名
9月13日	事業所向け研修会 実務に活かす権利擁護研修 ～日自と成年後見～	弁護士 千木良正氏	福祉サービス事業所 職員 30名
12月16日	市民向け講演会 落語で楽しく成年後見	行政書士 社会人落語家 生島清身氏	市民 47名
1月20日	市民向け講座 成年後見制度を知ろう	本会職員	高齢者サロン・浄明寺 路地カフェ 参加者 4名
2月5日	事業所向け研修会 法テラスの活用と成年後見制度	司法書士 塩崎 博一氏 法テラス事務局長 上野 哲男氏	福祉サービス事業所 職員 27名
計 6 回			147 名

**【今後の課題】**

令和6年度は市民向けに「落語」を通して後見制度の理解を深めてもらうよう内容の工夫をしました。講演会等の内容・進め方について、さらに創意工夫をしながら少しでも権利擁護の理解が深まる場にしていきたいと考えています。

#### ④市民後見人等の育成・活動支援

##### 【数値(到達)目標】

新たに市民後見人を増やすとともに、現在の市民後見人2名への活動支援を行います。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

令和6年度は、引き続き、既に活動している2名の市民後見人へ研修等の案内や、実務の相談を受け、支援しました。また、鎌倉市市民後見人養成講座（実践研修）を実施しました。市民後見人養成講座（実践研修）修了認定者選考審査会を開催し、新たに4人の修了生が誕生しました。

##### 【今後の課題】

新たに誕生した4人の修了生が市民後見人として活動できるよう、法人後見サポーターとして実務経験の機会を設けるとともに、鎌倉市や関係機関と受任案件について調整を行っていく必要があります。

#### ⑤親族後見人支援

##### 【数値(到達)目標】

講習会及び個別相談会を年1回開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

昨年度に引き続き、個別相談を毎月実施しており、「社協だより」に掲載した他、家庭裁判所にチラシ配布の依頼を行いました。令和6年度は、12件報告書の記載内容や相続に伴う課題などの相談がありました。

開催日	内容	講師	参加者
1月31日	よくわかる親族後見人の役割 ～親族が後見人になるということ ・報告書の書き方～	司法書士 若松 智子氏	12名
計 1 回			12名

##### 【今後の課題】

親族後見人の情報が開示されておらず、親族後見人への周知に限界がありますが、引き続き取り組みを継続していきます。

#### ⑥(新規) 鎌倉市成年後見制度利用促進協議会の運営

##### 【数値(到達)目標】

市と協働で年3回の協議会を開催します。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

成年後見制度の利用促進等を図ることを目的とした鎌倉市成年後見制度利用促進協議会の事務局として、協議会を3回開催しました。

成年後見制度の関係機関、関係団体等と課題の共有、必要な情報交換等を行うため、鎌倉市と協議を行いながら会議を開催し、成年後見制度利用の指針として、成年後見制度フローチャートを完成することができました。

#### 【今後の課題】

鎌倉市の成年後見制度の利用促進に向け、制度における課題等の情報を収集するため、関係機関・関係団体との連携を図る必要があります。また、今後市民後見人の受任のための市民後見人候補者選定会議等も含めた、受任調整会議の開催を視野に入れて市と協議を行っていく必要があります。

## 9 法人後見事業

### <1法人後見事業>

#### 1 法人後見事業 【あんしん生活係】

##### ①相談内容や対応状況の共有

##### 【数値(到達)目標】

法人後見及び後見実務についての周知を図ります。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

令和6年度は新たに3件を受任し、受任累計は19件になりました。うち4件は死亡により終了したため、3月末現在の受任件数は15件です。

令和5年度に実施したあり方検討を踏まえ、業務や受任対象者について整理を行うとともに成年後見センター事業の相談において、候補者を検討した際に大きな法的課題が見込まれず法人による長期的支援が必要な場合に他団体も含め案内してもらうよう依頼しました。また、訪問看護事業所よりの後見実務の講義依頼に対応するとともに、関係するケース会議に参加し、事業の説明・周知を行いました。

##### ●新規受任

対象者区分	年齢	類型	審判確定日	申込経緯
障害	49歳	後見	4月2日	支援する親族が不在である。
高齢	76歳	後見	1月10日	支援する親族が不在である。
障害	57歳	保佐	3月25日	支援する親族が不在である。

## 【今後の課題】

これまで目標受任件数 15 件に対応する職員を配置していましたが、今後、目標受任件数を上回る受任をした場合、適正な職員配置が必要となります。

## ②職員の専門性の向上

### 【数値(到達)目標】

県社協等が主催する成年後見制度に関する研修に参加します。

県社協が主催する実施社協連絡会に参加します。(年2回予定)

後見実務に精通した士業の専門職と連携することにより、職員の実務知識や専門性の向上を図ります。

### 【自己評価】

4 想定より取組めた

### 【取組みの概要】

成年後見人等の業務を適正に行うため、県社協等が主催する成年後見制度に関する研修に参加するとともに、年2回県社協が実施する法人後見実施社協連絡会に出席し、社協で行う後見業務の課題等を共有し、課題解決の参考としました。また、日々の業務で生じた疑問等については、専門職への相談を活用しながら解決を図りました。

年月日	方法	主催	研修名
10月11日	zoom	県社協	成年後見制度利用促進連絡会
11月8日	zoom	県社協	成年後見制度利用促進連絡会・調整会議
12月19日～12月25日	動画視聴	県社協	法人後見事業担当者現任研修
2月25日	動画視聴	全社協	K-ねっと全国セミナー
3月7日	動画視聴	リーガルサポート	権利擁護シンポジウム チームによる権利擁護支援を考える
専門職への相談			
4月17日	面会		受任案件の手続き書類の記載方法
6月19日	面会		受任案件の相続等の課題
7月8日	電話		受任案件の相続等課題
7月31日	面会		受任案件の不動産処分手続き等
8月20日	面会		受任案件の不動産処分手続き等
8月26日	メール		受任案件の不動産処分手続き
10月16日	面会		受任案件の不動産処分手続き等
1月22日	面会		受任案件の家庭裁判所への報告方法等
3月11日	面会		受任案件の終了事務手続き

### 【今後の課題】

引き続き県社協等主催の研修に参加し、成年後見制度の動向や実務の変更点等を確認し、円滑な事業の実施に努めます。具体的な法的課題については、事業に協力依頼している弁護士・司法書士等へ相談し、正確な実務が行えるよう努めます。

また、成年被後見人等を理解するために、関係機関の協力を得て、障害分野についても理解

を深める学習の機会が必要と考えます。

### ③法人後見審査会の開催

#### ●数値(到達)目標【数値(到達)目標】

定期開催・臨時開催を含め、年4回開催します。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

候補者として依頼があったケースについて、弁護士、医師、司法書士、社会福祉士、福祉職、行政職からなる審査会に本会が受任することの適否を諮りました。令和6年度は、審査会を3回開催し、2件を後見人等候補者とすることになりました。

#### <審査会開催日>

- ・ 4月24日（水）委員委嘱
- ・ 8月28日（水）諮問案件1件
- ・ 1月8日（水）諮問案件1件

#### 【今後の課題】

取組みを継続していきます。

## 10 生活困窮者自立支援事業

### <1就労準備支援事業>

#### 1 就労準備支援事業 【あんしん生活係】

##### ①就労準備プログラムの作成 ★活動計画Ⅱ-(3)-②

#### 【数値(到達)目標】

様々な理由から就労に向けた準備が整っていない者に対し、鎌倉市と連携・協議をしながら随時、受入れをしていきます。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

令和6年度の利用者数は12人です。新規利用者は3名で、本人の状況や希望を踏まえプログラムを作成し、自立相談支援機関、福祉事務所、ハローワーク等と連携しながら面談の他、就労体験、ボランティア体験など、利用者の状況に即した支援を実施しました。

令和6年度就労等の状況は、一般就労1名、アルバイト1名、中間就労1名、ハローワークでの求職活動者は5名です。

また、本事業の利用登録には至っていませんが、利用に向けて関係機関と調整・相談等を行っているケースは、次のとおり15件です。

インクル相談室鎌倉	3件	鎌倉市	4件	他機関	3件
当事者	4件	当事者家族	1件		

(相談回数延べ74回)

令和6年度は、新聞折込チラシ15,000枚配布を3月に行い事業の周知を行いました。

#### 【今後の課題】

本事業は基本的に福祉事務所及び自立相談支援機関における面談や調整を経て利用者が決定することとなっていますが、それ以外に、必要な方に必要な情報が届くよう周知の方法を工夫する必要があります。

### ②就労準備支援プログラムへの協力企業や団体の拡充 ★活動計画Ⅱ-(3)-②

#### 【数値(到達)目標】

利用者の就労希望に応じて、協力してもらえる就労体験協力店等の開拓を行います。

#### 【自己評価】

4 想定より取組めた

#### 【取組みの概要】

現在は5カ所の会社・団体等の協力により就労の場の提供をいただいています。6年度は7カ所の相談依頼を行い4カ所から協力を得られました。(郵便局・和菓子店・猫カフェ・居場所提供団体)

#### 【今後の課題】

多様な利用者の状況・希望に対応できるよう就労体験場所等の開拓を引き続き行っていく必要があります。また、就労体験の場が就労の場に繋がるよう引き続き、企業・団体に協力をお願いしていきます。

### ③利用者への柔軟で多様な支援の取組み ★活動計画Ⅱ-(3)-②

#### 【数値(到達)目標】

利用者一人ひとりの状況に合わせた支援プログラムを作成し、本人のステージに応じて支援を行います。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

利用者の状況や希望は様々ですが、就労に向けた活動を行えるよう、週1回の面談、就労体験やボランティア、講座、コミュニケーションの場に参加し、自己肯定感の醸成と他人との関係づくりができることを目指して支援を行っています。

また、令和6年度は、利用者・関係者・未登録者等が集う場(交流の機会)として、月に1回程度のイベントや講演会等を開催しています。これまで10回開催し、5～8人/回の参加がありました。

#### 【今後の課題】

利用者と支援者の更なる信頼関係を構築するとともに、より多くの利用者に参加してもらえ

るイベント、講座等も企画実施していく必要があります。

## 11 援護事業

### <1緊急援護事業資金貸付事業>

#### 1 緊急援護金の貸付・支給 【総務企画係】

##### ①緊急援護金の貸付・支給

###### 【数値(到達)目標】

「鎌倉市緊急援護事業に関する協定書」に基づき、適正な運用を図るよう、市と定例打合せを実施していきます。貸付事業について、返還金の滞納が生じないよう市と連携していきます。

###### 【自己評価】

2 想定より取組めなかった

###### 【取組みの概要】

従来、鎌倉市との委託契約により貸付・給付業務を行っていましたが、令和6年度から「鎌倉市緊急援護事業に関する協定書」に基づき、業務を遂行するよう改め実施してきました。市との打合せについては定例での実施には至りませんでした。相互の状況把握は適確に行われており業務に支障がでることなく、協定書の内容を遵守した取り組みが行えました。

[ ] は、5年度実績

種 類	件 数	貸付・給付金額 (円)
貸 付	24 [34]	599,100 [513,300]
給 付	18 [18]	6,820 [11,220]
計	42 [52]	605,920 [524,520]

###### 【今後の課題】

市と締結した「鎌倉市緊急援護業務委託契約書」「鎌倉市緊急援護事業に関する協定書」「鎌倉市緊急援護業務仕様書」をもとに、業務の円滑な履行を図ります。特に、市との定例打合せについては、毎月の実施日を定め実施することが必要であり、今後も市との情報共有、意見交換を適宜実施していきます。

### <2生活福祉資金貸付事業>

#### 1 生活福祉資金の貸付・償還相談の実施 【あんしん生活係】

##### ①通常的生活福祉資金の貸付相談・償還相談

###### 【数値(到達)目標】

相談者に寄り添った貸付相談、貸付申請まできめ細やかな相談対応の実施。

相談者に寄り添った償還相談をきめ細やかな相談対応の実施。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

神奈川県社会福祉協議会からの受託事業として低所得世帯等に対し、相談に応じるとともに自立更生に必要な資金貸付を行っています。

●相談に関する状況 [ ] は、5年度実績

相談件数	相談合計	制度内容相談	貸付相談	償還相談
	329 [432]	67 [137]	143 [71]	119 [224]

●貸付けに関する状況（特例貸付を除く） [ ] は、5年度実績

区分	種類	貸付件数	貸付金額（円）
総合支援資金	住宅入居費	0 [0]	0 [0]
	生活支援費	0 [0]	0 [0]
	一時生活再建費	0 [0]	0 [0]
生活福祉資金	福祉費（生保/洗濯機）	1 [0]	65,000 [48,000]
	教育支援資金 <sup>(※)</sup>	5 [1]	3,598,000 [810,000]
	緊急小口資金	2 [3]	200,000 [200,000]
臨時特例つなぎ資金	臨時特例つなぎ資金	0	0 [0]
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金（要保護型）	1 [4]	47,000 [13,396,490]
計		9 [0]	3,910,000 [5,303,000]

【今後の課題】

償還について十分に対応できなかったこともあり、本事業を継続・維持していくための体制強化が課題と考えています。

②コロナ特例貸付等の償還相談

【数値(到達)目標】

償還猶予者フォローアップ対象者へのきめ細やかな相談対応の実施。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

通常的生活福祉資金貸付に加え、令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施された特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）へのフォローアップ対応も引き続き行いました。対応件数は、令和6年12月末現在、74件で、自立相談機関をはじめ関係機関と連携して、償還や償還猶予申請などの相談に対応しました。

【今後の課題】

引き続き、県社協と連携して取組みを継続していきますが、本事業を継続・維持していくための体制強化とともに、借受者の情報が少ないことも課題と感じています。

## <3年未たすけあい援護事業>

### 1 年未たすけあい援護事業 【総務企画係】

#### ①年未たすけあい募金の配分

##### 【数値(到達)目標】

令和5年度実績(26 施設 23 団体 2,738,000 円)を維持できるよう年未たすけあい募金実績を達成していきます。

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

11 月 22 日(金)に年未たすけあい募金等配分委員会を開催し配分先及び配分金が確定しました。配分先及び配分金は次のとおりです。また、12 月 11 日(水)から 13 日(金)の 3 日間に来所いただき配分金を交付しました。

[ ] は、5 年度実績

配 分 先	団体等数	配分金額 (円)
福祉当事者団体	12 [12]	618,000 [638,000]
地域活動支援センター	9 [9]	540,000 [540,000]
就労支援施設及び就労継続支援施設	14 [13]	840,000 [780,000]
生活介護施設	1 [2]	60,000 [120,000]
放課後等デイサービス	2 [1]	120,000 [ 60,000]
自立訓練施設	1 [1]	60,000 [ 60,000]
ボランティア連絡協議会	1 [1]	60,000 [ 60,000]
地区社会福祉協議会	8 [8]	480,000 [480,000]
計	48 [47]	2,778,000 [2,738,000]

##### 【今後の課題】

令和6年度までの実績を踏まえ、配分先、配分金額、配分金の用途などについて見直しを行う必要があると認識しています。令和7年度においては、見直し内容を検討するための素案を課内で協議し、年未たすけあい募金等配分委員会で検討を行っていきます。

## <4災害見舞金等給付事業>

### 1 その他生活困窮者やコロナ禍を見据えた取組み 【地域福祉係】

#### ①生活困窮者への食糧支援

##### 【数値(到達)目標】

随時

##### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

##### 【取組みの概要】

本会の窓口等において、常時、緊急的な支援を行うための食糧を備蓄することにより、必要に応じて生活困窮者等に対して即時に食糧支援を実施できる体制を整えました。対象者は、本会窓口で生活福祉資金の相談等に来所した方などで、市生活福祉課やインクル相談室鎌倉等と連携して配付しました。

●主な紹介元

市生活福祉課	5件	日常生活自立支援事業	2件
インクル相談室鎌倉	22件	訪問看護事業所	0件
地域包括支援センター	0件	その他	10件
生活福祉資金貸付事業	10件	合計	49件

【今後の課題】

食糧支援のさらなる周知とともに、食糧配付自体は手段であり、本来の目的である来所者の困りごとを受け止め、何らかの生活支援につなげる取組みを強化する必要があります。

2 火災等の小災害時における緊急一時的な避難者の受入れ 【総務企画係】

①宿泊施設等への避難者の受入れ調整

【数値(到達)目標】

小災害時における緊急一時的な避難者の受入れが必要となった際に、市生活福祉課と連携し円滑な受け入れを行っていきます。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

緊急一時的な避難者の受入れ事案がありませんでした。

【今後の課題】

今後も市生活福祉課と連携し、避難者受入れ事案発生時には、迅速に対応することが必要と認識しています。

②災害見舞金の支給

【数値(到達)目標】

市生活福祉課と連携を図り災害見舞金の適切な支給を行っていきます。

【自己評価】

3 想定どおり取組めた

【取組みの概要】

市内で発生した火災による罹災世帯に対し見舞金を支給しました。

[ ] は、5年度実績

種 類	件 数	支給額 (円)
全 焼	3 [1]	60,000 [20,000]
半 焼	1 [1]	10,000 [10,000]

半壊	1 [0]	10,000 [ 0]
死亡	0 [2]	0 [40,000]
合計	5 [4]	80,000 [70,000]

**【今後の課題】**

今後も市生活福祉課と連携し、罹災世帯発生時には、迅速に対応することが必要と認識しています。

## 12 助成事業

### <1有償福祉活動グループ助成事業>

#### 1 有償福祉活動グループ助成事業 【地域福祉係】

##### ①在宅福祉サービス活動団体への助成

**【数値(到達)目標】**

鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会に属する3団体への助成金を交付します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

対 象	助成総額
鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会	400,000 円

上記のとおり連絡会に対して申請額のとおり助成しました。

**【今後の課題】**

連絡会を構成する3団体（愛コープ・グループゆう・和の会）では高齢化に伴う会員の確保が課題です。今後も連絡会と協働し、新会員の確保に努める取組みを進めます。

### <2福祉団体等助成事業>

#### 2 福祉団体等助成事業 【地域福祉係】

##### ①福祉当事者団体への助成 ★活動計画Ⅲ-(3)-①

**【数値(到達)目標】**

団体部会に所属する団体のうち助成金を希望する団体へ交付します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

地域福祉活動を推進するため、地域で活動する福祉当事者団体に助成しました。

対 象	助成団体数	助成総額
福祉当事者団体	9 団体	270,000 円

#### 【今後の課題】

各当事者団体のメンバーの高齢化、社会福祉制度の整備・拡充に伴う、団体活動の規模縮小傾向にある中で、従来通りの助成事業の実施で良いか、各団体にヒアリングを行い、助成金の適正、且つ有効な活用を促し、社協としても支援できることに積極的に取り組む必要があります。

### <3地区社協助成事業>

#### 3 地区社協助成事業 【地域福祉係】

##### ①地区社協への助成

#### 【数値(到達)目標】

9つの地区社協へ助成金を交付します。

#### 【自己評価】要

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

各地区社会福祉協議会に運営費、特別事業費（給食事業費、拠点維持費）、活動計画推進事業費の助成を行いました。令和6年度の運営費については、例年一律20万円助成していたところを、各地区社協加入世帯数（令和5年度赤い羽根共同募金戸別募金協力依頼数）に1世帯あたりの算出単価（14.8円）を乗じた額に10万円を加えた金額としました。また、活動計画推進事業費（助成金）の対象となる事業種類を第6次地域福祉活動計画（かまくらささえあい福祉プラン）に沿った内容に改め、令和7年度の申請から適用することにしました。

対 象	対象数	助成総額
地区社会福祉協議会	9	5,430,000 円

#### 【今後の課題】

令和6年度は給食事業費について激変緩和を考慮した見直し案を事務局から提示する予定でしたが、具体的な案の提示ができなかったため、令和7年度は見直し案を提示し協議を継続します。

## 13 地域包括支援センター事業

### <1地域包括支援センター事業>

#### 1 地域包括支援センター事業 【あんしん生活係】

##### ①総合相談・支援業務

### 【数値(到達)目標】

多種多様な相談に適切に対応するため、ケア会議(個別3:小地域1)を開催するなど関係機関との連携を行うとともに、職員の研修など研鑽を重ねます。事業者、民生児童委員、町内会等高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせるようネットワーク構築を目指します。

### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

### 【取組みの概要】

相談件数は1月約118件で、経過記録を残し、行政とも内容を共有しています。また、適切な支援のため関係機関との連携により、ケア会議(個別3回:小地域3回)、ケアマネサロン(年1回)、民生委員との連絡報告会(3回)、出張相談会(年2回)を開催しました。

### 【今後の課題】

より適切な相談対応の維持や地域ネットワーク構築に向けた上記の取り組みを維持継続していく必要性があります。

## ②認知症予防への取組み ★活動計画I-(3)-②

### 【数値(到達)目標】

認知症サポーター養成講座等を小中学校も含め開催するとともに、関係機関と連携しアルツハイマー月間などの周知啓発活動に取り組めます。

認知症当事者とその家族が気軽に集えるサロン(オレンジカフェ)の支援等に取り組めます。

### 【自己評価】

4 想定より取組めた

### 【取組みの概要】

認知症サポーター養成講座の開催(4回:335名)や防災安全情報メール登録への働きかけを行うとともに、関係機関が主催するオレンジカフェの開催支援を行いました。

また、中央図書館及び東急ストアと連携して、アルツハイマー月間の意味や支援施策についての周知を行うとともに、市内保育園(2か所)児による「塗り絵」(認知症サポーターシンボルのロバ隊長)の展示を行うなど、認知症の周知に努めました。

・図書館:9月6日~9月26日

・東急ストア:9月2日~9月30日

### 【今後の課題】

認知症カフェの開催支援を継続するとともに、認知症について不安や悩みを抱えている当事者やその家族を受け入れる地域づくりも必要と捉えています。

## ③介護予防マネジメント

### 【数値(到達)目標】

丁寧な面談と適切なアセスメントを心がけ、利用者にあった介護プランを提案します。ケアプランの件数は、月平均で約180件を目指します。市内ケアマネジャーとの事例検討会(隔月1回)、ケアプラン点検事業への参加協力を通して適切なケアマネジメントを目指します。

### 【自己評価】

### 3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

利用者の自立に向けた目標を達成し重度化を防ぐよう定期的なモニタリングやアセスメントを行い多職種連携のもと適切な介護予防ケアマネジメント（2,272件）を行いました。また、担当圏域の主任ケアマネジャーとの事例検討会（6回）鎌倉市ケアプラン点検事業（1回）を通して研鑽を重ねました。

月	4	5	6	7	8	9
件数	167	175	185	186	185	193
月	10	11	12	1	2	3
件数	190	197	197	196	199	202

#### 【今後の課題】

適切な介護保険サービスの利用支援等を維持継続するための人材（ケアマネジャー）確保が重要と捉えています。

## ④虐待・消費者被害等への対応

#### 【数値(到達)目標】

虐待或いはその危険性があるケースは、速やかに市に連絡相談し関係機関等と連携して対応方法を検討します。消費者被害については、訪問時の注意喚起や消費生活センターの情報を活用し安全ニュース等を定期的に利用者に配布する事で被害を予防する事に努め権利擁護の観点からも支援します。

#### 【自己評価】

### 3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

消費生活センター相談員を講師に招き市民への注意喚起を行うとともに、職員は市が実施する研修へ参加しました。また、高齢者虐待防止検討委員会の開催とともに、司法書士を招いて職場内外の多職種による勉強会を開催しました。

#### 【今後の課題】

上記事業の継続と定着化が求められています。

## ⑤介護予防・介護者支援の取組み

#### 【数値(到達)目標】

家族介護予防教室の開催(1回)、ティールームの開催(2回)、「わくわく算数教室」の開催(11回)、外出イベント(1回)の開催を通して介護予防・介護者支援に取り組めます。

#### 【自己評価】

### 3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

家族介護予防教室の開催（2回）、高齢者サロンの開催（ティールーム：4回）、（わくわく算数：11回）、名越やすらぎセンターのバスを活用した外出支援イベント（1回）を開催しまし

た。

#### 【今後の課題】

高齢者だけでなく介護者や子ども世代が興味を持って参加してもらえるようACP（人生会議）、後見制度、終活に関する教室や講座の開催を通じて目標達成に取り組めます。

## 14 老人福祉センター運営事業

### <1 老人福祉センター運営事業(名越・教養・今泉・玉縄・腰越)>

#### 1 老人福祉センター運営事業 【老人福祉センター】

##### ①建物、機械設備の保守点検及び小破修繕の実施

###### 【数値(到達)目標】

鎌倉市老人福祉センター指定管理仕様書及び共通仕様書・施設別仕様書に沿って、各施設で建物や機械設備の保守管理に万全を期します。また、機械設備の故障や水道配管の漏水など、小規模な修繕について各施設ですみやかに実施し、施設利用者が安全で安心して通うことができる施設づくりを目標とします。

###### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

###### 【取組みの概要】

建物及び付帯設備の保守点検については、センター職員又は設備担当職員（委託）によって、日々の目視点検及び専門業者による定期点検を実施しました。

小規模な破損や故障である小破修繕については、予算の範囲内で速やかに対応しました。

また、小破修繕であっても予算を超える修繕については、市と協議して市の予算で実施することができました。

###### 【今後の課題】

腰越なごやかセンターを除く4施設は、建物及び付帯施設ともに老朽化が進行し、大規模な修繕が必要とする時期であり、市との協議を継続することが必要です。

##### ②サークル活動への支援、サークル作品展及び発表会の実施

###### 【数値(到達)目標】

- ・通年で、各施設のサークルが楽しく活動を継続できるようサポートしていきます。
- ・通年で、常設作品展を実施します。
- ・名越やすらぎセンター、腰越なごやかセンター、教養センターは、鎌倉駅地下道ギャラリー展示を年1回実施します。
- ・腰越なごやかセンター、玉縄すこやかセンターは、フェスティバル開催時期に併せて作品展を年1回実施します。
- ・教養センターは、鎌倉生涯学習センターで作品展及び舞台発表会を年1回実施します。

## 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

## 【取組みの概要】

各施設とも年間を通じてサークル活動への支援を行いました。教養センターの作品展示や舞台発表会は、新型コロナウイルス等の感染予防に配慮しながら実施しました。

## 【今後の課題】

各施設共に、施設利用者の高齢化に伴うサークル活動の維持・継続に課題があり、支援の在り方や60歳代の加入促進の検討が必要です。

## ③生活福祉相談、健康相談、福祉法律相談の実施、なんでも相談窓口の実施

★活動計画Ⅳ-(1)-①

### 【数値(到達)目標】

- ・生活福祉相談は通年で実施します。
- ・健康相談は、各施設共に月4回実施します。
- ・福祉法律相談は、名越やすらぎセンターを除き4施設で年1回実施します。
- ・なんでも相談窓口は、各施設で設置します。

## 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

## 【取組みの概要】

窓口による生活福祉相談は、各施設共に通年で実施しました。保健師による健康相談は、各施設共に月4回実施しました。弁護士による福祉法律相談は、名越やすらぎセンターを除き4施設で年1回実施しました。

なんでも相談窓口は、各施設1回試行で実施しました。

## 【今後の課題】

生活福祉相談を受ける職員(センター職員)に資質向上への取り組みが必要です。また、福祉法律相談は、利用者が少ないことから、実施場所や実施回数を見直す必要があります。

なんでも相談窓口は、令和7年1月から実施した試行結果をもとに次年度以降の実施を検討する必要があります。

## ④マイクロバス、ワゴン車による送迎サービスの実施

### 【数値(到達)目標】

- ・名越やすらぎセンターの送迎マイクロバス(市役所～センター間)は、1日5～6便運行します。
- ・腰越なごやかセンター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンターで送迎ワゴン車を運行します。

## 【自己評価】

4 想定より取組めた

## 【取組みの概要】

送迎マイクロバス、送迎ワゴン車共に大きな事故もなく定期運行に取り組みました。また、利用者のニーズに合った運行の見直しを行い、利用者の増加につながりました。

#### 【今後の課題】

運転手不足の社会状況により、マイクロバスやワゴン車の運転手確保も困難になってきています。安定的な確保につながる対策が必要です。

また、公共交通機関（路線バス）の減便や路線廃止に伴い、利用者のニーズを常に把握ながら運行の見直しが必要となると考えられますが、車両台数や乗車定員に限りがあるため、現状では全てのニーズに対応するには困難です。

### ⑤一般教養講座、専門講座、年間講座、健康づくり講座、生活講座の実施。フェスティバル等事業の実施

#### 【数値(到達)目標】

- ・教養センターで、一般教養講座を年 48 回実施します。
- ・各施設で、専門講座を年 219 回実施します。
- ・教養センターで、年間講座を年 98 回実施します。
- ・各施設で、健康づくり講座を年 114 回実施します。
- ・教養センターを除く各施設で、生活講座を年 9 回実施します。
- ・フェスティバル等を各施設で年 1 回実施します。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

一般教養講座（34 回）、専門講座（175 回）、年間講座（56 回）、健康づくり講座（131 回）、生活講座（56 回）の計 409 回実施しました。

フェスティバル事業は、新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、各施設とも 1 回実施することができました。

#### 【今後の課題】

各施設ともに新たな講座の取り組みが必要ですが、企画や講師確保に課題があります。また、講座の実施方法などの検討も必要です。

### ⑥施設利用者と地域の子どもから大人・高齢者が交流できる事業の実施 ★活動計画Ⅱ-(1)-③

#### 【数値(到達)目標】

各施設でフェスティバル実施月を除く月 1 回（年 10 回）程度、多世代交流事業を実施します。5 施設の統一企画を年 1 回実施します。

#### 【自己評価】

3 想定どおり取組めた

#### 【取組みの概要】

各施設の独自企画として多世代交流事業を、フェスティバル等実施月を除いて月 1 回（年 11 回）実施しました。

5施設の統一企画として1月に「ラダーゲッター体験教室」を実施しました。

**【今後の課題】**

さらに事業の企画内容の幅を広げ、過去3年間に評判の良かった企画や幅広い年代が参加しやすい企画に取り組み、さらなる参加者の増加や満足度の向上に取り組む必要があります。

**⑦協定にもとづく小災害時の避難所運営及び大規模災害時の福祉避難所運営への協力**

**【数値(到達)目標】**

- ・福祉避難所設置運営訓練に年2回参加します。
- ・災害時対応にむけた無線訓練を年2回実施します。
- ・防災・減災に関する職員の資質向上のための研修会へ年1回参加します。
- ・災害時対応に関する鎌倉市との協議を年2回実施します。

**【自己評価】**

3 想定どおり取組めた

**【取組みの概要】**

小災害時の避難所及び福祉避難所の開設はありませんでした。発災時に備え、福祉避難所マニュアルの作成及び改定に協力をしました。

発災時に備え、名越やすらぎセンター及び今泉さわやかセンターで福祉避難所設営・運営訓練に参加・協力を行いました。

災害時に電話等のインフラが使用できないことを想定して、各施設に設置してあるMCA無線の通信訓練を実施しました。

**【今後の課題】**

福祉避難所の開設にあたり、大規模災害時の職員の安否確認と各施設への参集、職員の意識の向上、市との連携に課題があります。

**1 利用状況**

月	名越やすらぎセンター	腰越なごやかセンター	教養センター	今泉さわやかセンター	玉縄すこやかセンター	計(名)
4	1,408	2,052	2,589	1,858	1,338	9,245
5	1,358	1,981	2,794	1,883	1,388	9,404
6	1,326	1,683	2,782	1,979	1,398	9,168
7	1,327	2,067	2,346	1,960	1,338	9,038
8	1,215	1,779	1,232	1,608	1,129	6,963
9	1,292	2,015	2,390	1,741	1,256	8,694
10	1,468	2,386	3,251	1,892	1,434	10,431
11	1,287	2,146	2,845	1,787	1,440	9,505
12	1,181	2,031	2,256	1,669	1,283	8,420
1	1,229	1,933	2,429	1,821	1,290	8,702
2	1,262	2,058	2,482	1,800	1,354	8,956
3	1,313	2,316	2,187	1,821	1,252	8,889

計	15,666 [16,213]	24,447 [20,683]	29,583 [30,651]	21,819 [21,003]	15,900 [14,807]	107,415 [103,357]
---	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	----------------------

## 2 利用者協議会・懇話会、サークル代表者会議の開催

施設名	利用者懇話会 (回)	サークル代表者会議 (回)
名越やすらぎセンター	4 [2]	0 [0]
腰越なごやかセンター	4 [6]	1 [2]
教養センター	4 [4]	1 [2]
今泉さわやかセンター	5 [1]	2 [0]
玉縄すこやかセンター	1 [1]	1 [0]

## 3 フェスティバル等事業の開催

施設名	イベント名	実施日・参加人数
名越やすらぎセンター	フェスティバル	10/12 (土) 202名
腰越なごやかセンター	ギャラリー展	10/22~26 247名
	フェスティバル	10/26 (土) 302名
教養センター	文化祭	10/19 (土)・20 (日) 502名
	サークル作品展・舞台発表	作品展 9/17~23 613名 舞台発表 9/17 164名 延べ 777名
今泉さわやかセンター	フェスティバル	10/6 (日) 163名
玉縄すこやかセンター	フェスティバル	10/26 (土) 179名

### ◆みらいふる鎌倉との共催事業

みらいふる鎌倉との共催を開催しました。

イベント名	開催場所・内容	参加者 (名)
第3回 元気鎌倉教養講座	鎌倉学習センターホール 10/4 第一部：講演「天正遣欧少年使節とその周辺」 第二部：室内楽演奏（鎌倉チェンバーオーケストラ）	247

## 4 各種講座の開催

施設名	講座種類	内容	参加者 (名)
名越やすらぎ センター	専門講座 〈5講座〉	スマホ入門講座(6月)／熱中症対策／源氏物語の 舞台／小筆入門講座II／スマホ入門講座(3月)	延べ 238 [274]
	健康づくり講座 〈4講座〉	フレイル予防教室／耳血流アップ／オトナのエク ササイズ／お元気体操名越やすらぎ編	

	生活講座 〈1 講座〉	終活のススメ	
腰越なごやか センター	専門講座 (2 講座)	多世代将棋教室／源氏物語の舞台	延べ 1,437 [894]
	健康づくり講座 〈5 講座〉	ふまねっと運動／囲碁ボール／カラオケ体操／ディスコワールドエクササイズ／みんなで健康トーク&ミュージックサロン	
	生活講座 〈4 講座〉	熱中症の予防と対策講座／安心安全スマホ講座／身近な腰痛／安心安全スマホ入門講座	
	地域福祉推進事業 〈1 講座〉	歌声広場	
教養センター	一教教養講座 〈24 講座〉	<p>＜春期分＞ ヴァイオリンと私／ビートルズと日本文化／神奈川県植物相／鎌倉幕府と金剛三昧院／鎌倉公方と鎌倉寺社／英語の詩の世界／交通から見る中世／健康的な食生活を考える</p> <p>＜夏期分＞ ピアノ曲で欧州巡り／ユダヤ民族と食の規定</p> <p>＜秋期分＞ 音楽から出会う近代の作家達／ブラタモリができるまで／渋沢栄一と「論語」／スポーツって何？／鎌倉の寺社と伝説／仏像を見る、見せる／「紫式部日記」を読む／厠のはなし</p> <p>＜冬期分＞ 鎌倉と徳川家のゆかり／日本切手で楽しむ日本美術／高齢者の食生活と健康／博物館学芸員の仕事／中世鎌倉・茶会への誘い／サザエさんと昭和</p>	延べ 9,316 [8,883]
	専門講座 〈18 講座〉	<p>＜春期分＞ 男の料理教室／唐代詩文の世界／芭蕉の「おくのほそ道」を読む／安心安全スマホ入門講座／教養としての西洋美術史Ⅱ／陶芸入門</p> <p>＜秋期分＞ 初心者のトールペイント／鎌倉・六浦の寺社／平安朝よもやま話／唐代詩文の世界（二）／鎌倉よもやま part 2／教養としての西洋美術史Ⅲ／スマホ入門講座 10 月／スマホ入門講座 12 月</p> <p>＜冬期分＞ ジャズの歴史探求／防災・減災基礎講座／鎌倉を知るⅡ／安心安全スマホ入門講座 2 月</p>	
	健康づくり講座 〈8 講座〉	<p>＜春期分＞ 楽々シニアエアロ／骨盤底筋と健康の体操／しっかり未病予防</p> <p>＜秋期分＞ 筋膜リリース&amp;ヨガ／骨盤底筋と健康の体操／秋の未病予防体操</p> <p>＜冬期分＞ 冬こそ未病予防体操／骨盤底筋と健康の体操</p>	
	年間講座	はじめてのイタリア語／紫式部とその時代／東海	

	<4講座>	道を落語で巡る／文学の本棚	
今泉さわやかセンター	専門講座 <1講座>	多世代囲碁教室	延べ 350 [251]
	健康づくり講座 <4講座>	健康音楽表現体操／ヨガ・ストレッチ&リズムステップ／3B体操／健康音楽表現体操Ⅱ	
	生活講座 <1講座>	食事と健康	
	地域福祉推進事業 <1講座>	新春のつどい	
玉縄すこやかセンター	専門講座 <5講座>	源氏物語の舞台／源氏物語の成立とその後／楽しく学ぶ囲碁教室／七夕祭りのお飾り作り／はじめての手話 part 2／スマホ入門講座／戦国大名北条氏と鎌倉	延べ 321 [219]
	健康づくり講座 <3講座>	歯のお手入れと口腔体操／はじめよう！太極拳／はじめてのピラティス	
	生活講座 <2講座>	身近な防犯講座／詐欺から財産を守る	
	地域福祉推進事業	すこやかうたごえ広場	

※新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮して実施。

## 5 車椅子の貸出及び各種相談事業の実績

単位：件数

施設名	車椅子貸出	福祉・介護専門相談	福祉法律相談
名越やすらぎセンター	0 [10]	15 [10]	
腰越なごやかセンター	1 [0]	9 [5]	1 [1]
教養センター	0 [0]	0 [26]	1 [2]
今泉さわやかセンター	1 [1]	4 [3]	1 [1]
玉縄すこやかセンター	5 [6]	0 [5]	1 [1]

## 6 世代間交流（多世代交流事業）の実施

施設名	実施回数	内容	参加人数
名越やすらぎセンター	11	私だけの香りオイル／麴を使ったスイーツ作り／気をつけておきたいお薬の飲み方／やすらぎ落語会／リコーダーを吹いて歌ってミニコンサート／秋の花かざり／相撲術で心と体を健康に／お正月飾り教室／ラダーゲッター／ちょこつと深堀・名越のこと／資生堂・プロが教える実践教室	延べ 133 [37]
腰越なごやかセンター	11	フライパンで作るリンゴのケーキ／江ノ島道をちょこつと探検／ディスコワールドといすヨガ	延べ 140

		体操／大人も子供も初めてのフラダンス体験／ かわいいバネグチポーチを作ろう／大人も子供 もボッチャ体験／鎌倉ヒバでクリスマスリース を作ろう／お正月飾りを作りましょう／ラダー ゲッター／和菓子作り体験／大人も子供もフィ ンガーアート	[94]
教養センター	12	茶道交流／エコノミー症候群予防体操／相撲術 で心と体を健康に／そば打ち体験教室／積み木 でつくる昭和・平成・令和のまちづくり／水餃子 作り体験教室／そば打ち体験教室2／天然酵母 パン作り教室／ブッシュドノエル作り／ラダー ゲッター／えごまの葉のキムチ作り／書道で遊 ぶ、ボトルラベル作り	延べ 225 [58]
今泉さわやかセンター	11	ストレッチと筋トレで貯筋しよう／はじめての ヨガ／七夕祭りの竹飾り作り／グラウンドゴル フ体験教室（荒天中止）／囲碁ボール体験教室／ 竹馬づくり／ちょこっと探検／正月飾りづくり ／ラダーゲッター／グラウンドゴルフ体験教室 ／さわやか寄席	延べ 151 [61]
玉縄すこやかセンター	11	ちょこっと探検・玉縄城址／ふれあい入浴／保護 犬とふれあう／生き物育成講座／マジックショ ーとマジック教室／管楽器による小編成アンサ ンブルコンサート／ダンス&ダブルダッチ／曼 茶羅ぬり絵／ラダーゲッター／オリジナル演劇 ／箏曲演奏会	延べ 322 [82]
5センター合計			延べ 971 [332]

※新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮して実施。

## 7 マイクロバス・ワゴン車送迎の運行実績

	年間利用者数
名越やすらぎセンター【マイクロバス】	16,052
腰越なごやかセンター【ワゴン車】	6,385
今泉さわやかセンター【ワゴン車】	6,652
玉縄すこやかセンター【ワゴン車】	5,863
計	34,952